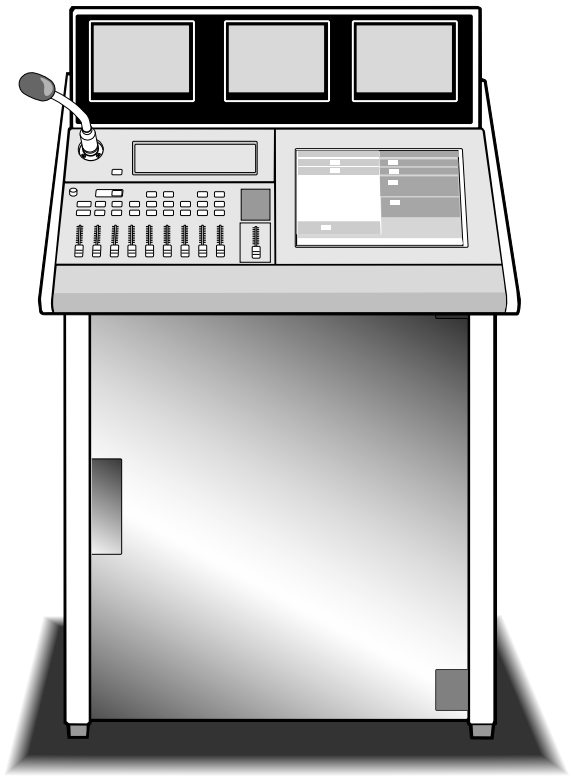
AVコミュニケーションシステム

型名 AV-7100

取扱説明書



お買い上げありがとうございます。
ご使用の前にこの「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」は必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。
製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。

LST0421-001B
3TR004518BAA

このたびは、AVコミュニケーションシステムAV-7100を
お買い上げいただき、ありがとうございます。

特長

本機は映像や音声放送をコントロールするための放送制御機器です。学校や教育センター、研修所などでご利用いただけるよう、本機1台で放送、編集、録画をコントロールできます。

- タッチパネル方式操作モニターに表示されるボタンを押すだけで操作できます。
- アイコン表示により、ボタンを直感的に操作できます。
- 映像や音声を最大3系統まで同時に放送できます。
- VTRやテープレコーダー、CDプレーヤーなどを接続できます。使用目的にあったシステムを構築できます。
- 映像ミキサーを接続することができます。映像ミキサーを接続することにより、映像に文字を重ねたり、ワイプをかけるなどの映像編集が行えます。また、録画用のVTRを接続すれば、編集した内容をVTRに録画することもできます。

もくじ

特長 2

添付物・付属品 3

使用上のご注意 4

機能の説明 6
- ■概要 6
- ■機能の説明 6

システム構成 7
- ■システム図 7
- ■基本構成 8
- ■組み込める機器（AV-7010） 8
- ■接続できる放送（音声・映像）用機器 8

各部の名称とはたらき 9
- ■操作部 9
- ■予備入力パネル 11
- ■ラジオチューナー（AV-7010） 12

こんなことができます 13

やさしい使いかた 15

音声放送パターン、映像放送パターンの使用上の注意 27

画面操作のしかた 28
- ■画面の出しかた 28
- ■選択のしかた 28

音声放送のしかた 29
- ■音声放送のしかた 29
- ■モニターのしかた 31

録音のしかた 32

音声ミキサー操作のしかた 33

映像放送のしかた 34
- ■映像放送のしかた 34
- ■映像モニターのしかた 35

録画のしかた.....38
■通常録画のしかた.....38
■ダビングのしかた.....39
■アフレコのしかた.....41
映像ミキサーへの入力切り換え.....42
■映像ミキサー画面を表示する.....42
■入力映像の切り換え.....43
■ミキサーで合成された映像を録画する.....43
入力設定・変更.....44
■ラジオ・予備入力・マイクロホンミキサー（レピーター）などを放送、録音するとき.....44
■音声ミキサーの設定.....45
■VTR2入力端子の切り換え.....45
音声・映像放送パターン操作の内容変更.....46
■音声・映像放送パターン操作.....46
■内容変更・登録のしかた.....46
■新規設定登録のしかた.....48
■入力設定内容について.....48
■放送パターンデータのバックアップについて.....48
前と同じ状態で使いたい（ラストワンメモリーのしかた）.....49
■記憶（登録）するとき.....49
■記憶を呼び出すとき.....49
ラジオチューナーの使い方.....50
■操作のしかた.....50
■放送局のメモリーのしかた.....51
リモコン放送のしかた.....52
■マルチリモートマイクロホン（AV-7042）から放送するとき.....52
■AVリモコン放送（音声・映像同時に放送する）.....54
■チャイム放送.....54
■リモートマイクロホン（PA-C50/C51/C52）から放送するとき.....55
■放送の優先順位.....56
スタジオとの連絡.....57
■スタジオ連絡スイッチを使う.....57
■インターカム.....57
カメラタリーについて.....58
おもな仕様.....59
メッセージ一覧.....61
故障と思うまえに.....62
操作パターン登録内容記述シート.....63
拡張パターン登録内容記述シート.....65
保証とアフターサービス.....裏表紙

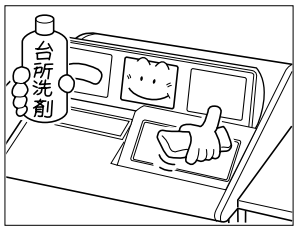
添付物・付属品

音量表示ラベル.....(6枚入 3シート)
取扱説明書(本書).....1
設置説明書.....1
安全上のご注意.....1
保証書.....1
ビクターサービス窓口案内.....1
カギ.....2

使用上のご注意

● お手入れは

主電源を切って乾いた布で拭いてください。ほこりがとれにくいときは、台所用中性洗剤を布に侵み込ませて軽く拭いてください。



● 長時間使用されないときは

主電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。

ただし、非常用放送設備の一部としてご使用になる場合は、電源プラグを抜いたり、ブレーカーのスイッチを「切」にしないようお願いします。

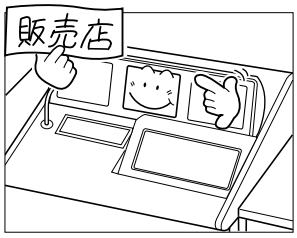
● 予備入力パネル部の主電源スイッチは

リモコン放送が行なえるようにするため常時、電源「入」の状態にしてください。

主電源スイッチを「切」にした後、再度主電源スイッチを「入」にすると、システムの立ち上げにしばらく時間がかかります。(1〜2分程度)

タッチパネルは操作部にある電源スイッチで電源の入／切を行ないます。

● 消耗品の交換について



- 放熱ファンは約50,000時間を目安に交換してください。
- 液晶モニターのバックライトは消耗品です。約10,000時間を目安に交換してください。
- 内蔵バックアップ電池の交換目安は約5年です。寿命を過ぎると、主電源スイッチを「入」にしたときにエラーとなることがあります（エラーとなっても本機に記録されているパターンデータなどの記憶内容には影響ありません)。

※ 消耗品の交換は保証期間内でも有料となります。

※ これらの寿命時間はあくまでも交換の目安であり、部品を保証するものではありません。

※ 部品の交換はお買い上げの販売店にご依頼ください。

● 接続する機器について

本機に接続する機器は、日常点検を行うことをおすすめします。

詳しくは各機器の取扱説明書をお読みください。

● 放熱ファンについて

放熱ファンが故障するとファンアラームが鳴ります。すぐに主電源スイッチを「切」にしてください。

なお、放熱ファンの交換は販売店にご相談ください。

● モニターについて

本機のモニターはTFT液晶ディスプレイです。TFT液晶ディスプレイは、高度な技術を駆使して開発されており、鮮明度・画質等に優れておりますが、画面の一部にドットかけや常時点灯するドットが存在する場合があります。あらかじめご了承ください。

操作モニターの使用上のご注意

1. 指または先端が鋭利ではないもので軽くタッチしてください。
2. シャープペンシルやボールペンなど、先端の硬い材質の物では絶対に操作しないでください。
   故障の原因となります。

VTRの使用上のご注意

1. 入力映像信号がNTSC標準に合わない場合は、同期乱れが発生することがあります。
2. 入力映像にノイズが多いときは、出力画質も悪化します。
3. 入力映像にジッターが多いときは、色、出力映像の同期乱れが発生することがあります。
4. トラッキングノイズは同期乱れを起こすので、VTRのトラッキング調整を必ず行なってください。
5. ご使用になるVTRやビデオモニターの特性により画面上部に曲がりが生じることがあります。
6. TVチューナー付きのVTRにアンテナを接続せず使用するときは、チャンネルを外部入力に固定して使用してください。（外部入力端子には何も接続しなくても結構です。）
   外部入力以外のチャンネルが選ばれていると、映像が乱れる場合があります。

著作権について

本製品を使用して、他人の著作物（例：CD、DVD、ビデオなどの媒体に収録されている映像・音声・静止画など）を録音、録画、編集する場合、以下の点に注意する必要があります。

①著作権上、個人的に使用する目的で著作物を複製する場合を除き、その他の複製あるいは編集などが著作権を侵害する恐れがあります。収録されている媒体などにより示されている権利者、販売元または権利者団体などを介して、著作権・著作権者から許諾を得て、複製、編集などを行う必要があります。

②学校その他の教育機関における著作物（教材など）の複製は、著作権法第35条で、その授業の過程における使用に供することを目的とする場合には、必要と認められる限度において、かつ著作権者に損害を与えない範囲において著作物を複製できる、となっています。また、著作物（教材など）、またはその複製物は、著作権者の権利を侵害しない限り、お客様の責任において自由にお使いいただくことができます。

機能の説明

■概要

- 学校、教育センター、研修所などの放送設備で音声1系統（3系統）、映像3系統の放送及び、録音、録画、ダビング、モニター（状態監視）などの機能を備えています。
- 音声、映像各37個（標準7個、拡張30個）のパターンスイッチに、あらかじめ操作内容を登録しておき、通常操作はこのスイッチを押して登録されたパターンの放送や録音、録画を行なえ、複雑な操作を省くことができます。
- マルチリモートマイクロホン（マルチリモコンマイク）、リモートマイクロホン（リモコンマイク）により、リモコン放送が可能です。
- 操作画面を表示し、画面上で操作、状態監視ができます。
- 電源を切る前の映像操作パターンを記憶し、次に使用するときに電源を切る前と同じ状態で使用できるラストワンメモリー機能があります。
- YC分離（S-VHS準拠）方式の映像制作、録画ができます。
- 豊富な入出力端子を装備し、テープレコーダーにステレオ録音できます。
- 映像ミキサーを接続することができます。映像ミキサーを接続することにより、映像に文字を重ねたり、ワイプをかけるなどの映像編集が行えます。

■機能の説明

●音声放送・録音

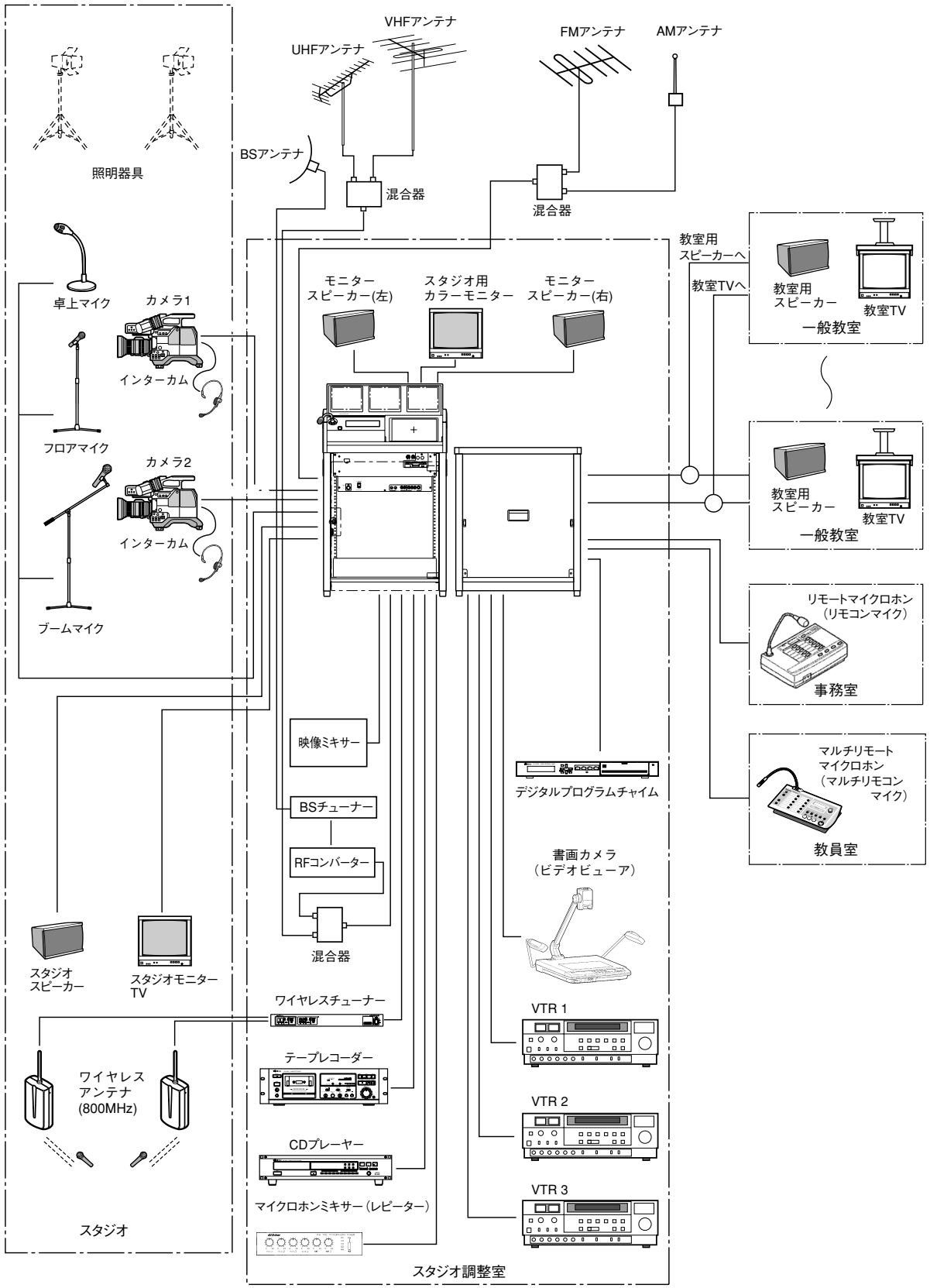
1. アナウンスマイク、マイク（3本まで）、CD、テープ、ワイヤレスマイク、ラジオ放送など豊富な入力ソースを、個別に、またはミキシングして各室のスピーカーに個別、ブロック別、または一斉に放送します。（スピーカー制御回路は最大70まで）放送系統は1系統または3系統を設置時に選択できます。
2. 上記ソースは個別またはミキシングして、テープレコーダーに録音できます。
3. 音声レベルはピークホールド機能付レベルメーターとモニタースピーカーでモニターできます。
4. マルチリモートマイクロホン（マルチリモコンマイク）、リモートマイクロホン（リモコンマイク）を用いて、多地点（最大8ケ所）からリモコン放送できます。
5. ワンタッチでアナウンスマイクから全スピーカーに一斉放送できます。
6. タイマー、チャイムと組み合わせて、報時チャイム放送を行なえます。
7. 音声ミキサーからVTRへアフレコを行なえます。

●映像放送・録音

1. VTR（3台まで）、カメラ（書画カメラを含む5台の中から切り換え）、DVDなどの映像ソースを、教室用TV等に 3 系統別々に放送できます。
2. 上記映像ソース（VTR3を除く）を、VTR（1、3）に録画できます。（VTR3のみYC可能）また、2台のVTR間のダビング、音声ミキサーを使ったアフレコができます。
3. 外部に接続した映像ミキサーで映像編集が行えます。また、録画用のVTRを接続すれば、編集した内容をVTRに録画できます。
4. 映像ソース、放送状態は3台の内蔵カラー液晶モニターでモニターできます。

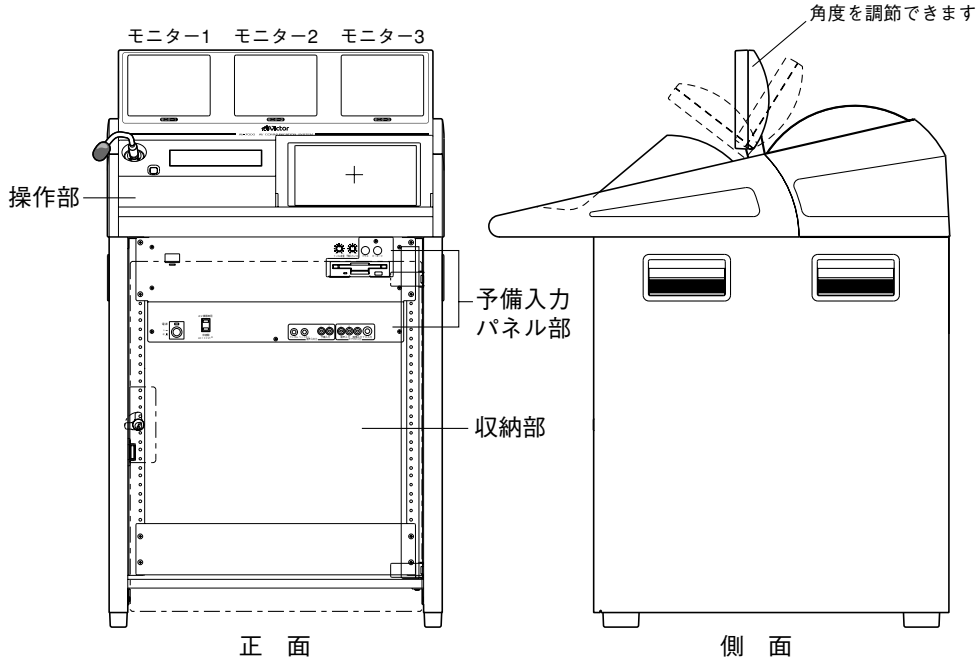
システム構成

■システム図



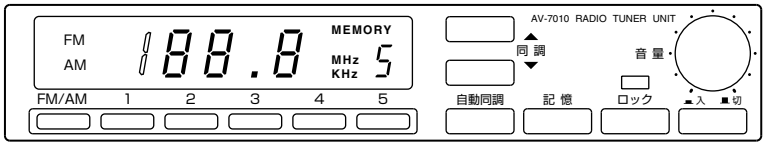
システム構成

■基本構成（AV調整卓本体）



■組み込める機器（**AV-7010**）

ラジオチューナーユニット（AV-7010：別売品）... 1



■接続できる放送（音声・映像）用機器

（工事や設置を要する機器は設置説明書をお読みください。）

●音声用機器

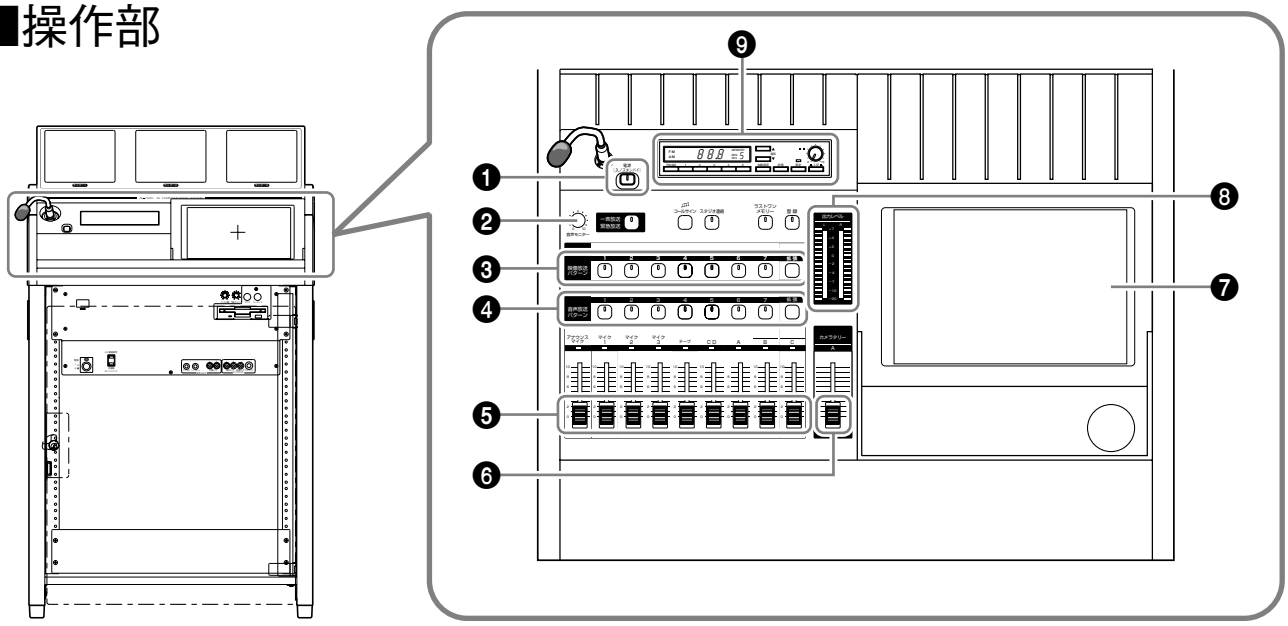
CDプレーヤー 1
テープレコーダー 1
マイクロホン 3
ワイヤレス受信機 1
モニタースピーカー（L/R：ステレオ） 2
スタジオスピーカー 1
プログラムチャイム 1
リモートマイクロホン（リモコンマイク） 1
マルチリモートマイクロホン
（マルチリモコンマイク） 8台まで

●映像用機器

VTR 3台まで
DVDプレーヤー 1
カラービデオカメラ 4台まで
映像ミキサー 1
書画カメラ 1
教室テレビ
　マスターモニターテレビ 1
　スタジオモニターテレビ 1

各部の名称とはたらき

■操作部



❶ 電源スイッチ［電源（入／スタンバイ）］
このスイッチを押すと電源が入ります。このスイッチを切っても、予備入力パネルの主電源スイッチ（11ページの⓱）が「入」のときは、本機は通電しており、スタンバイ状態にあります。

❷ モニター音量つまみ［音声モニター］
モニタースピーカーの音量を調節します。

❸ 映像放送パターンスイッチ1～7、拡張（30パターン）［映像放送パターン］
あらかじめ映像放送や、制作、録画のパターンを定めておき、このスイッチに登録しておきます（14ページ、48ページをお読みください）。
電源スイッチを入れ、このスイッチを押すと、登録されたパターンの映像放送や制作、録画を行なえます。拡張スイッチを押すと最大30パターンまで登録できます。

❹ 音声放送パターンスイッチ1～7、拡張（30パターン）［音声放送パターン］
あらかじめ放送や録音のパターンを定めておき、このスイッチに登録しておきます（13ページ、48ページをお読みください）。

❺ 音声ミキサー（音量つまみ）［アナウンスマイク、マイク1･2･3、テープ、CD、A、B、C］
アナウンスマイク、マイク、テープ、CD、A、B、Cの音量を調節します。（音声ミキサー使用時）A、B、Cは、次のように入力設定できます。
（44ページをお読みください。）
A： VTR1、音声予備1、音声予備3の中から1つ選択。
B： VTR2、ワイヤレス、音声予備2の中から1つ選択。
C： VTR3、レピーター、ラジオの中から1つ選択。

❻ タリーフェーダー［カメラタリー］
映像ミキサーで2つのカメラを切り換えて放送するとき、どちらのカメラタリーを点灯させるのかを選択するときに使用します。

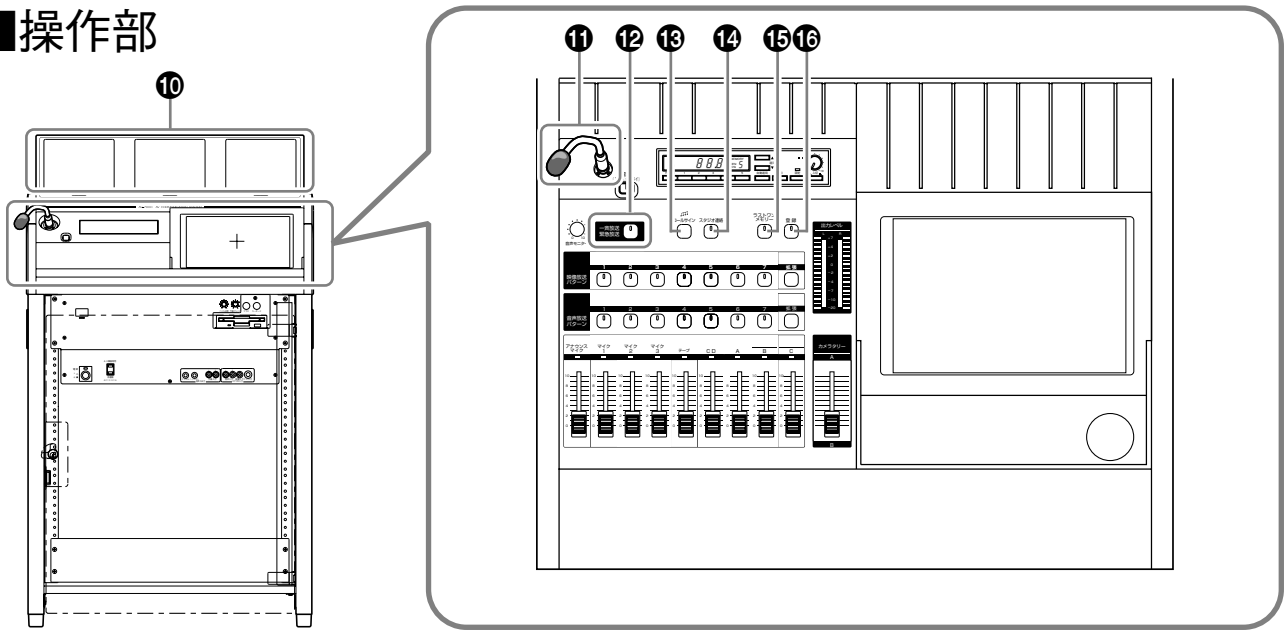
❼ 操作モニター
タッチパネル方式で、画面に指で触れて簡単に操作できます。

❽ 出力レベルメーター［出力レベル］
音声ミキサーの音量を示します。最大で0dBを超えないように音量を調整します。

❾ ラジオチューナー（別売品）

各部の名称とはたらき（つづき）

■操作部



⓾ 映像モニター1～3（左から順に）
モニターは次のように映像入力、映像放送状態を見ることができます。

モニター1：[1] 映像系統1で放送中の映像、VTR1、カメラ1～3、映像予備1・3

モニター2：[2] 映像系統2で放送中の映像、VTR2、カメラ2・4、映像予備2・4

モニター3：[3] 映像系統3で放送中の映像、DVD、VTR1～3、カメラ1～4、書画カメラ映像予備3・4、映像ミキサー

また、モニター部は角度調整することができます。映像の見やすい角度に調整してお使いください。

⓫ アナウンスマイク

⓬ 緊急スイッチ［一斉放送／緊急放送］
このスイッチを押し、アナウンスマイク⓫に向かって話すと、全校一斉に放送されます。コールサインスイッチを押すと、コールサインも放送されます。（ただし、スタジオスピーカーには放送されません）

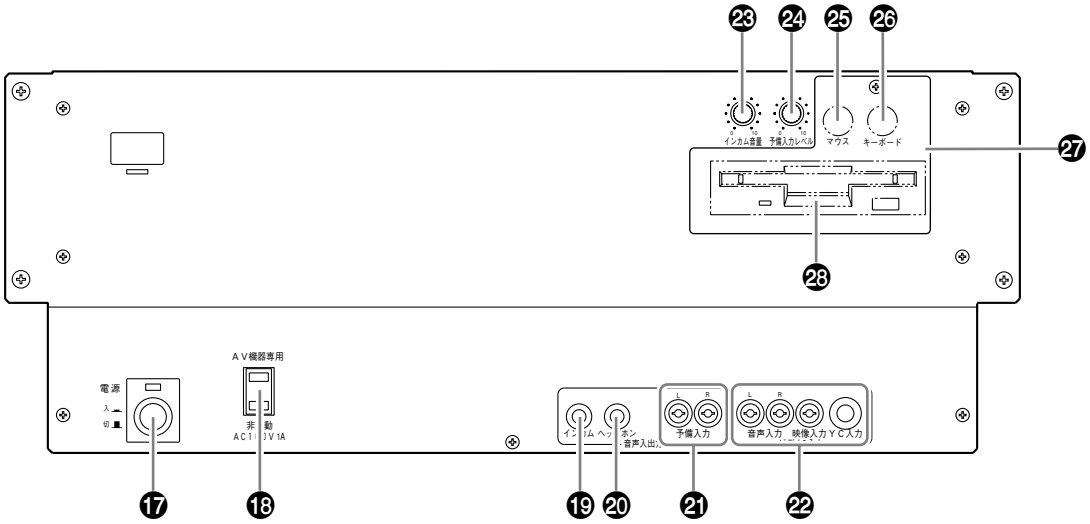
⓭ コールサインスイッチ［コールサイン］
アナウンスの前後などに押すと、コールサインが放送されます。

⓮ スタジオ連絡スイッチ［スタジオ連絡］
このスイッチを押し、アナウンスマイク⓫に向かって話すと、スタジオスピーカーに放送されます。

⓯ ラストワンメモリースイッチ［ラストワンメモリー］
映像操作の最後の状態を記憶しておき、電源を切って、次に再び使用するときに、電源を切る前と同じ状態で使用できます。

⓰ 登録スイッチ［登録］
パターンスイッチ、ラストワンメモリーへ登録するときに使用します。

■予備入力パネル



⑰ 主電源スイッチ［電源入／切］
電源を「入」または「切」します。
・再度電源を入れる場合は約5秒経過してからスイッチを押してください。
・電源スイッチを「切」にしても、電源からは遮断されません。電源を遮断する場合、ACコンセントから本機の電源プラグを抜いてください。

⑱ AV機器専用コンセント［AV機器専用］
AC100 V 1 Aまでの機器を接続できます。(非連動)

⑲ インターカムジャック［インカム］
(複式フォンジャック)
インターカムヘッドセットを接続し、各カメラと通話します。音量調整は㉓のインターカム音量つまみで行なってください。

⑳ ヘッドホンジャック［ヘッドホン］
音声モニター用のヘッドホン出力です（複式フォンジャック)。ヘッドホンを接続するとモニタースピーカーからの音声は出力されません。

㉑ 音声予備1入力端子［予備入力L/R］
(ピンジャック)
音声予備入力1：テープ、ワイヤレス、DVD、MDなどの予備入力端子です。入力レベルの調整は㉔の予備入力レベルつまみで行なってください。

㉒ ビデオ-2入力端子
［映像入力、音声入力L/R、YC入力］
VTR2は、後面にも入力端子があり、操作画面で前面／後面を選択します。「前面」を選択したときは、本端子に接続します。
S-VHSのVTRを接続する場合は、Sビデオ出力をYC入力端子に接続します。

㉓ インターカム音量つまみ［インカム音量］

㉔ 予備入力レベル調整つまみ［予備入力レベル］

通常は使用しません(設置工事業者様用)

㉕ マウスコネクター［マウス］
カスタマイズ作業を行うときマウスを接続します。FDDフタ㉗を外して作業してください。

㉖ キーボードコネクター［キーボード］
カスタマイズ作業を行うときキーボードを接続します。FDDフタ㉗を外して作業してください。

㉗ FDDフタ
データのバックアップやカスタマイズ作業を行うとき、このフタをはずします。

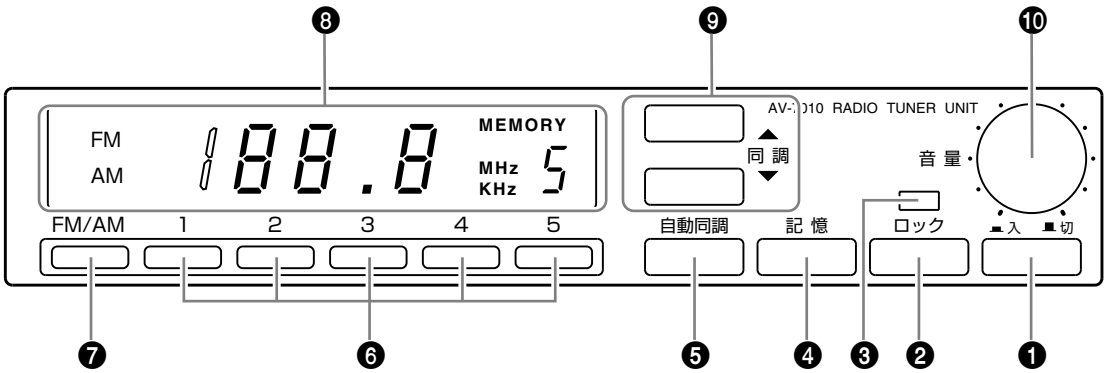
㉘ フロッピーディスクドライブ（FDD）
データーのバックアップに使用します。FDDフタ㉗を外して作業してください。

キーボード、マウスについて
キーボードやマウスは以下のものをお使いください。(キーボード:ミニDINコネクタータイプ、マウス:PS/2タイプ)

各部の名称とはたらき（つづき）

■ラジオチューナー（AV-7010：別売品）

使いかたは50ページをお読みください。



❶ チューナー入／切スイッチ［入／切］
チューナーの電源を入／切します。

❷ ロックスイッチ［ロック］
このスイッチを押すと、受信している局にロック（固定）されます。
もう一度押すと解除します。

❸ ロック表示灯
ロック（固定）状態のとき、点灯します。

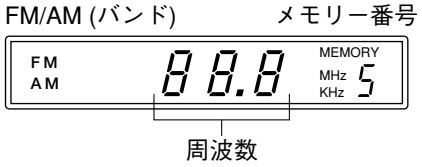
❹ 記憶スイッチ［記憶］
放送局をメモリー（記憶）するときに使います。

❺ 自動同調スイッチ［自動同調］
放送局を自動的に選局するときに使います。

❻ メモリー選局スイッチ［1、2、3、4、5］
放送局の記憶および記憶した放送局を呼び出します。

❼ FM/AM切換スイッチ［FM/AM］
FM放送とAM放送を切り換えます。

❽ 周波数・選局表示
FM/AM（バンド）、周波数、メモリー番号を表示します。



❾ ▲周波数アップ／▼周波数ダウンスイッチ［同調］
受信周波数を調整します。
（マニュアル選局時使用します。）

❿ 音量つまみ［音量］
音量を調節します。右まわしで大きくなります。

こんなことができます（音声放送パターン操作）

ご注意

音声放送パターン、および映像放送パターン操作の説明（13〜26ページ）は、出荷時の登録内容にもとづいています。登録内容を変更している場合は動作が異なりますので、登録内容を確認してから操作してください。

1	個別連絡放送1	アナウンスマイクの音を1〜4のスピーカーへ放送する（1系統） アナウンスマイクの音を1系統全スピーカーへ放送する（3系統）	16ページ
2	個別連絡放送2	アナウンスマイクの音を5〜7のスピーカーへ放送する（1系統） アナウンスマイクの音を2系統全スピーカーへ放送する（3系統）	17ページ
3	個別連絡放送3	アナウンスマイクの音を8〜10のスピーカーへ放送する（1系統） アナウンスマイクの音を3系統全スピーカーへ放送する（3系統）	18ページ
4	お昼の放送	音声ミキサーでアナウンスマイク、CD（コンパクトディスク）、テープの音を全校にミキシング放送する	19ページ
5	アフレコ	音声ミキサーでVTR3のビデオテープに音声をアフレコする （VTR3にアフレコ機器が無いとできません） 映像パターン操作5と組み合わせて使用する	20ページ
6	テレビ朝会	カメラ1と4の映像と、音声ミキサーの音を教室テレビと全校のスピーカーへ放送する （映像ミキサー「無」に設定した場合は、カメラ1に固定。 スピーカーへの放送は、手動で放送ONします。） 映像パターン操作6と組み合わせて使用する	21ページ
7	編集録音	音声ミキサーでミキシングした音を録音する	23ページ

27ページの「音声放送パターン・映像放送パターンの使用上の注意」も必ず読んでください。

こんなことができます（映像放送パターン操作）

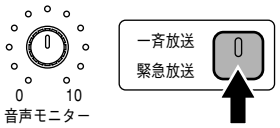
1	ビデオ放送	VTR1、2、3の音声と映像を映像系統1、2、3に放送する	24 ページ
2	制　　作	●映像ミキサー「有」に設定した場合 映像ミキサーの映像と音声ミキサーの音声をVTR3に録画する ●映像ミキサー「無」に設定した場合 カメラ1の映像と音声ミキサーの音をVTR3に録画する	25 ページ
3	ダビング（YC）	VTR1からVTR3へ映像と音声のダビングをする （YC：Sービデオの場合）	26 ページ
4	ダビング	VTR1からVTR3へ映像と音声のダビングをする	26 ページ
5	アフレコ	音声ミキサーでVTR3のビデオテープに音声をアフレコする （VTR3にアフレコ機能が無いとできません） 音声パターン操作5と組み合わせて使用する	20 ページ
6	テレビ朝会	●映像ミキサー「有」に設定した場合 カメラ1と4の映像と音声ミキサーの音声を各教室のテレビと全校スピーカーに放送する。カメラ1と4の映像は、映像ミキサーで切り換える（スピーカーに放送する場合、手動で放送をONにする）。 ●映像ミキサー「無」に設定した場合 カメラ1の映像と音声ミキサーの音声を各教室のテレビと全校スピーカーに放送する。スピーカーに放送する場合、手動で放送をONにする）。	21 ページ
7	未設定		

27ページの「音声放送パターン・映像放送パターンの使用上の注意」も必ず読んでください。

やさしい使いかた（一斉放送／緊急放送のしかた）

1

一斉放送／緊急放送スイッチを押す

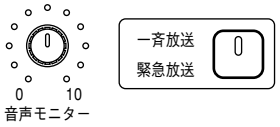


電源が入り、画面がでる

（アナウンスマイクを全校へ放送する事を示しています）

2

コールサインスイッチを押す



全校にコールサインが鳴る

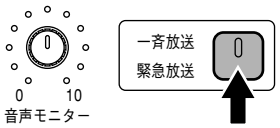
3

アナウンスマイクで放送する

全校に放送される
（音量は固定です）

4

放送が終わったら、再び一斉放送／
緊急放送スイッチを押す



電源が切れる

メモ

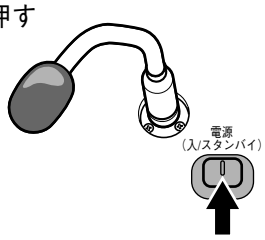
- 音量はプリセットされていますので、音声ミキサーの音量つまみによる調整はできません。
  また、出力レベルメーターは出力レベルを表示しません。
- 各放送先スピーカーのアッテネーター（音量調節器）は無効となります。
- 音声モニターは1系統の音声をモニターします。
- アナウンスマイク使用時は、ハウリング（ピーという発振音）防止のため、モニタースピーカー音は小さくなります。
- 一斉放送／緊急放送スイッチを押して電源を入れる（または切る）と、数秒間は電源を切る（または入れる）ことができません。
- 一斉放送／緊急放送中は、電源スイッチを押しても電源を切ることはできません。

やさしい使いかた（音声放送パターン操作）

1	個別連絡 放　送　1	アナウンスマイクの音を1～4のスピーカーに放送する（1系統） アナウンスマイクの音を1系統全スピーカーに放送する（3系統）

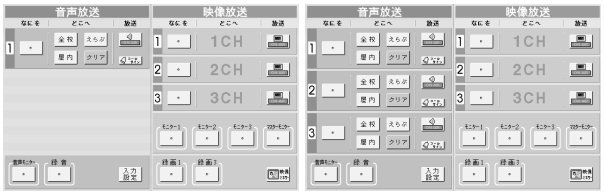
1

電源スイッチを押す



⇨

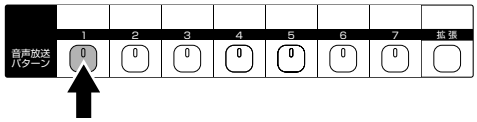
音声・映像放送画面が表示される※



1系統　　3系統

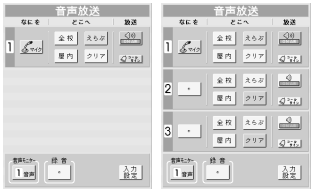
2

音声放送パターンスイッチ[1]を押す



⇨

設定されている音声放送状態に画面が変更される

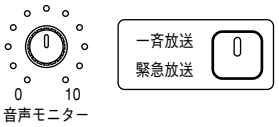


1系統　　3系統

（アナウンスマイクを個別のスピーカーに放送する事を示しています）

3

コールサインスイッチを押す



⇨

1～4のスピーカーにコールサインが放送される（1系統）
1系統の全スピーカーにコールサインが放送される（3系統）
（約4秒間）

4

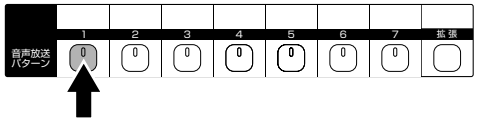
アナウンスマイクで放送する

⇨

1～4のスピーカーに放送される（1系統）
1系統の全スピーカーに放送される（3系統）
（音量は固定です）

5

終ったら再び音声放送パターンスイッチ[1]を押す

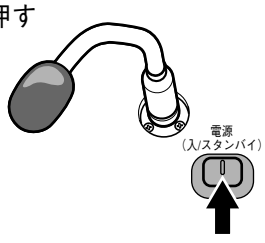


⇨

音声放送の設定が解除され、パターンスイッチ[1]の表示灯が消える

6

電源スイッチを押す



⇨

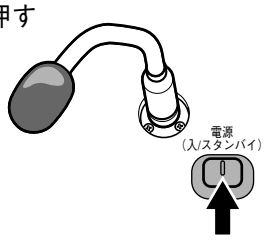
電源が切れる

※　映像ミキサーを「無」に設定した場合、映像放送画面に 映像ミキサー は表示されません。

2	個別連絡 放　送　2	アナウンスマイクの音を5～7のスピーカーに放送する（1系統） アナウンスマイクの音を2系統全スピーカーに放送する（3系統）

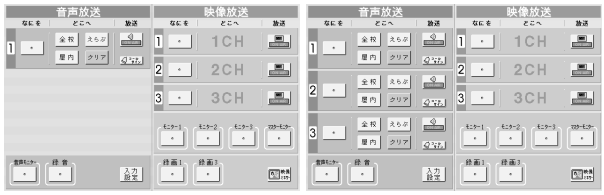
1

電源スイッチを押す



⇨

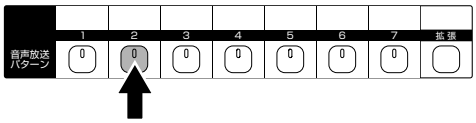
音声・映像放送画面が表示される※



1系統　　3系統

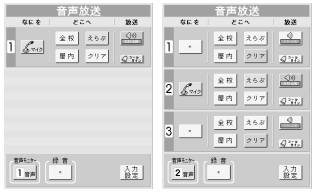
2

音声放送パターンスイッチ[2]を押す



⇨

設定されている音声放送状態に画面が変更される

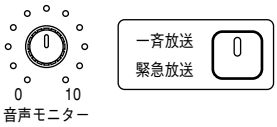


1系統　　3系統

（アナウンスマイクを個別のスピーカーに放送する事を示しています）

3

コールサインスイッチを押す



⇨

5～7のスピーカーにコールサインが放送される（1系統）
2系統の全スピーカーにコールサインが放送される（3系統）
（約4秒間）

4

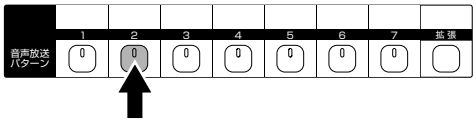
アナウンスマイクで放送する

⇨

5～7のスピーカーに放送される（1系統）
2系統の全スピーカーに放送される（3系統）
（音量は固定です）

5

終ったら再び音声放送パターンスイッチ[2]を押す

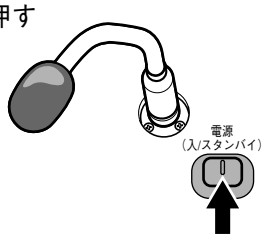


⇨

音声放送の設定が解除され、パターンスイッチ[2]の表示灯が消える

6

電源スイッチを押す



⇨

電源が切れる

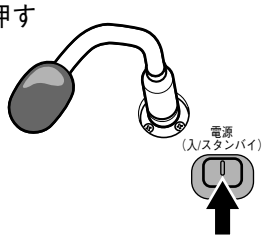
※　映像ミキサーを「無」に設定した場合、映像放送画面に 映像ミキサー は表示されません。

やさしい使いかた（音声放送パターン操作）

3	個別連絡 放　送　3	アナウンスマイクの音を8～10のスピーカーに放送する（1系統） アナウンスマイクの音を3系統全スピーカーに放送する（3系統）

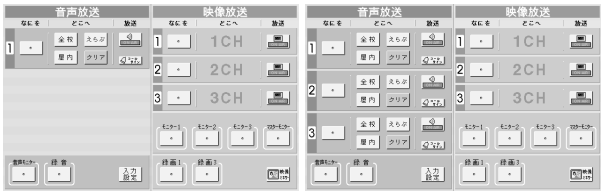
1

電源スイッチを押す



⇨

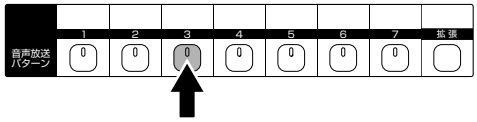
音声・映像放送画面が表示される※



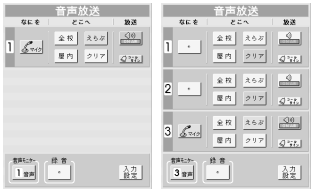
1系統　　3系統

2

音声放送パターンスイッチ3を押す



設定されている音声放送状態に画面が変更される

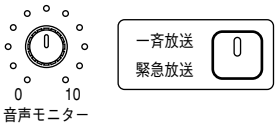


1系統　　3系統

（アナウンスマイクを個別のスピーカーに放送する事を示しています）

3

コールサインスイッチを押す



⇨

8～10のスピーカーにコールサインが放送される（1系統）
3系統の全スピーカーにコールサインが放送される（3系統）
（約4秒間）

4

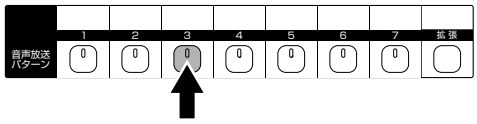
アナウンスマイクで放送する

⇨

8～10のスピーカーに放送される（1系統）
3系統の全スピーカーに放送される（3系統）
（音量は固定です）

5

終ったら再び音声放送パターンスイッチ3を押す

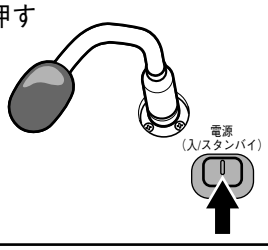


⇨

音声放送の設定が解除され、パターンスイッチ3の表示灯が消える

6

電源スイッチを押す



⇨

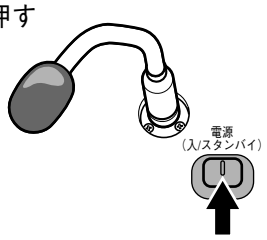
電源が切れる

※　映像ミキサーを「無」に設定した場合、映像放送画面に 映像ミキサー は表示されません。

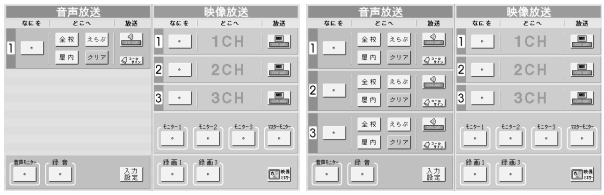
4	お昼の放送	音声ミキサーでアナウンスマイク、CD（コンパクトディスク）、テープの音を全校にミキシング放送する

1

電源スイッチを押す



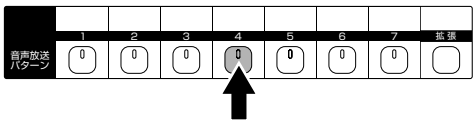
音声・映像放送画面が表示される※1



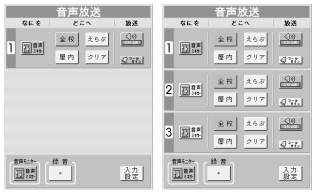
1系統　3系統

2

音声放送パターンスイッチ4を押す



設定されている音声放送状態に画面が変更される

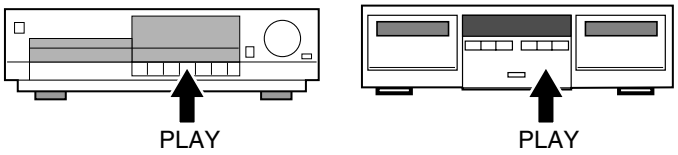


1系統　3系統

（音声ミキサーを全校に放送する事を示しています）

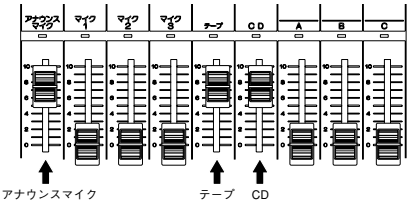
3

CDプレーヤー、テープレコーダーを動作させる



4

音声ミキサーの音量つまみを上げる※2

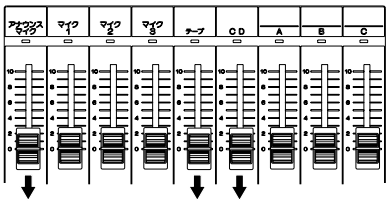


アナウンスマイクで放送する

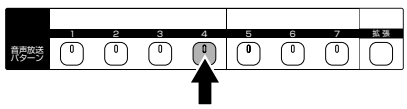
全校に放送される

5

音量つまみを下げる



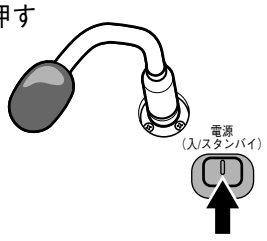
終ったら再び音声放送パターンスイッチ4を押す



CDプレーヤー、テープレコーダーを止める

6

電源スイッチを押す



電源が切れる

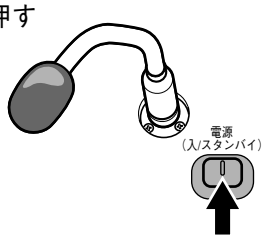
※1　映像ミキサーを「無」に設定した場合、映像放送画面に 映像ミキサー は表示されません。
※2　音量は出力レベルメーターで確認できます。最大音量が0 dBを超えない程度に音量つまみで調節してください。

やさしい使いかた(音声・映像放送パターン操作)

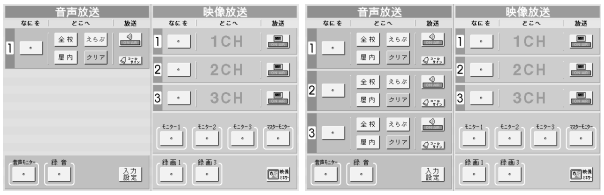
5	アフレコ	音声ミキサーでVTR3のビデオテープに音声をアフレコする (VTR3にアフレコ機能がないとできません)

1

電源スイッチを押す



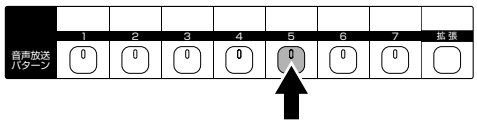
音声・映像放送画面が表示される※1



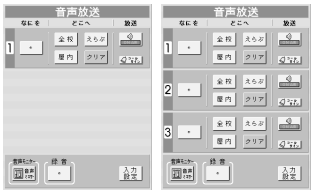
1系統　3系統

2

音声放送パターンスイッチ5を押す



設定されている音声放送状態に画面が変更される

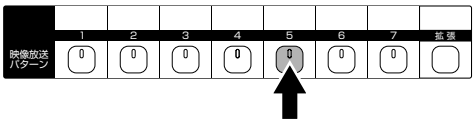


1系統　3系統

(モニタースピーカーに音声ミキサーの音が出ることを示しています)

3

映像放送パターンスイッチ5を押す

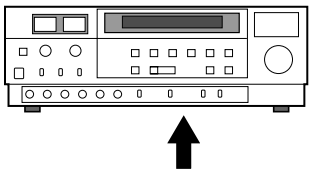


録画の状態が映像放送画面側に表示される※1

(アフレコ可能な状態を示しています)

4

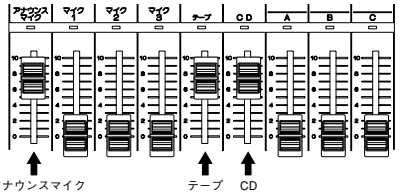
VTR3をアフレコにする



マスターモニターとモニター3にVTR3の映像がでる

5

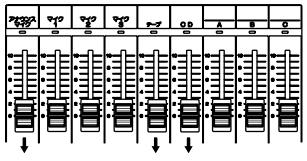
音声ミキサーの音量つまみを上げる※2



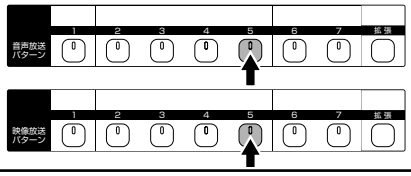
映像に合わせて、アナウンスマイクや、テープ、CDで音を録音する

6

音量つまみを下げる



終ったら再び映像放送パターンスイッチ5と音声放送パターンスイッチ5を押す



VTR3、CD、テープを止め、電源スイッチを押す

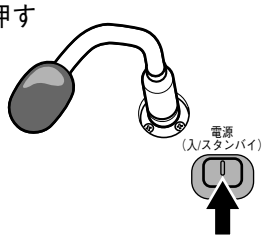
※1　映像ミキサーを「無」に設定した場合、映像放送画面に 映像ミキサー は表示されません。

※2　音量は出力レベルメーターで確認できます。最大音量が0 dBを超えない程度に音量つまみで調節してください。

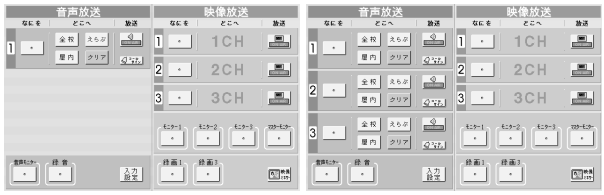
6	テレビ朝会	カメラ1とカメラ4の映像と、音声ミキサーの音を教室テレビと全校のスピーカーに放送する。映像ミキサーを「無」に設定している場合、カメラ1の映像と音声ミキサーの音を教室テレビと全校スピーカーに放送する。

1

電源スイッチを押す



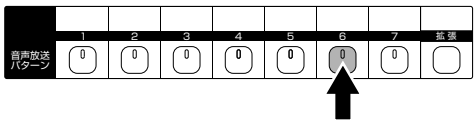
音声・映像放送画面が表示される※1



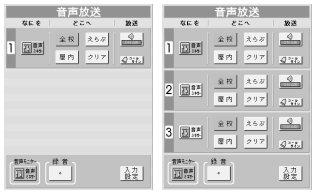
1系統　3系統

2

音声放送パターンスイッチ6を押す



設定されている音声放送状態に画面が変更される

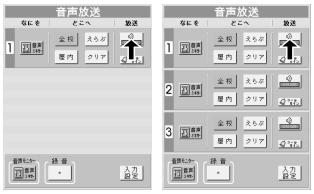


1系統　3系統

（音声ミキサーが全校に放送する準備が完了しモニタースピーカーに音声ミキサーの音が出ることを示しています）

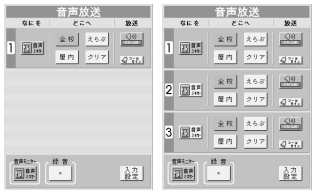
3

操作画面の「ON AIR」を指で押す



1系統　3系統

スピーカーが放送可能になる

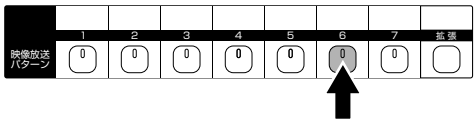


1系統　3系統

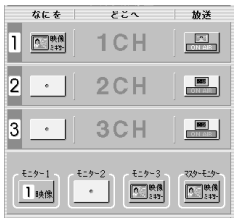
（パターンスイッチ6の表示灯が消える）

4

映像放送パターンスイッチ6を押す



映像放送の状態が映像放送画面側に表示される※2



- 映像ミキサー／カメラ1が映像1系統に放送されることを示しています
- モニター1でCH1、モニター3、マスターモニターで映像ミキサー／カメラ1をモニターできる

5

カメラ1、カメラ4で映像を映す※3

カメラの映像が1系統に放送される
カメラ1、カメラ4の映像選択は、映像ミキサーを操作して行う

（次ページへ→）

※1　映像ミキサーを「無」に設定した場合、映像放送画面に 映像ミキサー は表示されません。

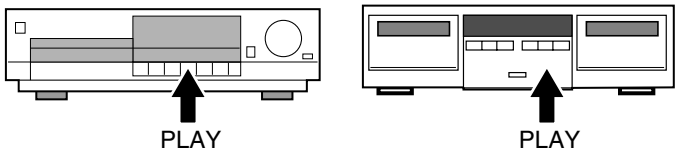
※2　映像ミキサーを「無」に設定した場合、 映像ミキサー の位置に 1カメラ が表示されます。

※3　カメラ4は映像ミキサーを「有」に設定した場合にだけ使用できます。

やさしい使いかた(音声・映像放送パターン操作)

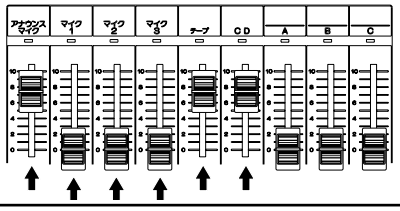
6

CDプレーヤー、テープレコーダーを動作させる



7

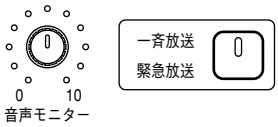
音声放送ミキサーの音量つまみを上げる※1



⇨ CDやテープの音が全校に放送される
マイク1～マイク3のつまみを必要に応じて操作する

8

コールサインスイッチを押す



⇨ 全校にコールサインが放送される（約4秒間）

9

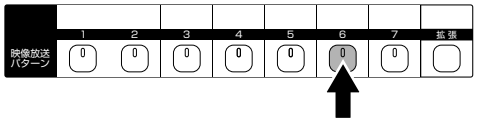
アナウンスマイクで放送する

⇨ 全校に放送される

10

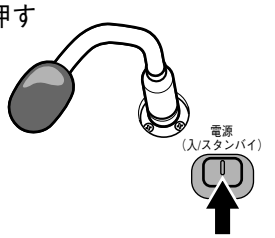
カメラ1、カメラ4やCDプレーヤーなどを止め、音声ミキサーのボリュームを下げる※2

⇨ 終ったら再び音声・映像放送パターン
スイッチ[6]を押す



11

電源スイッチを押す



⇨ 電源が切れる

※1　音量は出力レベルメーターで確認できます。最大音量が0 dBを超えない程度に音量つまみで調節してください。

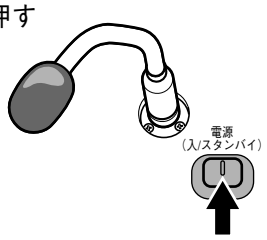
※2　カメラ4は映像ミキサーを「有」に設定した場合にだけ使用できます。

やさしい使いかた（音声放送パターン操作）

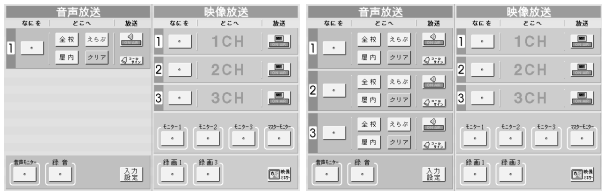
7	編集録音	音声ミキサーでミキシングした音を録音する

1

電源スイッチを押す



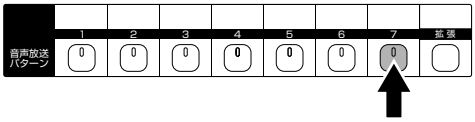
音声・映像放送画面が表示される※1



1系統　　3系統

2

音声放送パターンスイッチ7を押す



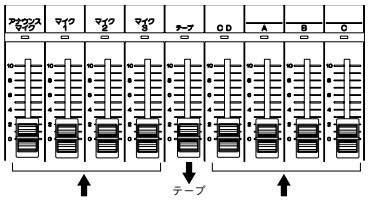
録音状態に音声放送側画面が変更される

1/3系統

（音声ミキサーの音が録音され、モニタースピーカーに音声ミキサーの音がでることを示しています）

3

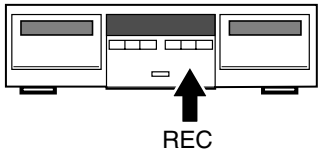
使用する音量つまみを上げる※2



テープの音量つまみは下げておく
（上げると発振します）

4

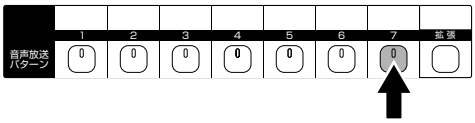
テープレコーダーを録音状態にし、録音レベルを調節する



音声がミキシング状態で録音される

5

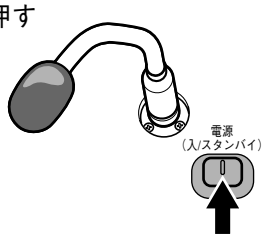
終ったら再び音声放送パターンスイッチ7を押す



テープレコーダーを止め、音量つまみを下げておく

6

電源スイッチを押す



電源が切れる

※1　映像ミキサーを「無」に設定した場合、映像放送画面に 映像ミキサー は表示されません。

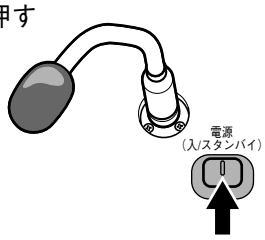
※2　音量は出力レベルメーターで確認できます。最大音量が0 dBを超えない程度に音量つまみで調節してください。

やさしい使いかた(映像放送パターン操作)

1	ビデオ放送	VTR1、VTR2、VTR3の音声と映像を映像系統1、2、3に放送する

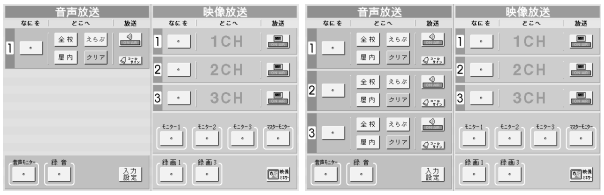
1

電源スイッチを押す



⇨

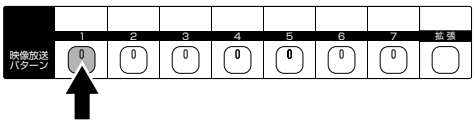
音声・映像放送画面が表示される※



1系統　　3系統

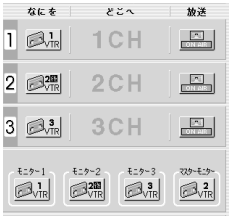
2

映像放送パターンスイッチ[1]を押す



⇨

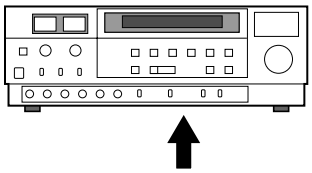
映像放送の状態が映像放送画面側に表示される



・VTR1が映像1系統に、VTR2が映像2系統に、VTR3が映像3系統に、放送されることを示しています
・モニター1でVTR1を、モニター2とマスターモニターでVTR2を、モニター3でVTR3を確認できます

3

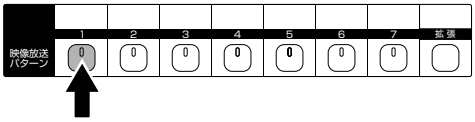
VTR1、2、3を再生状態にする



⇨ 教室のテレビにVTRの映像が放送される

4

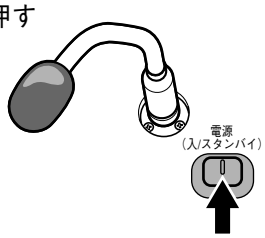
終ったら再び映像放送パターンスイッチ[1]を押す



⇨ VTRを止める。映像放送の設定が解除され、パターンスイッチ[1]の表示灯が消える

5

電源スイッチを押す



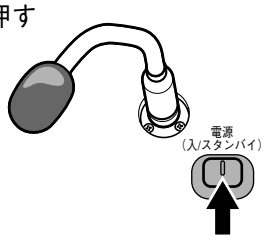
⇨ 電源が切れる

※　映像ミキサーを「無」に設定した場合、映像放送画面に 映像ミキサー は表示されません。

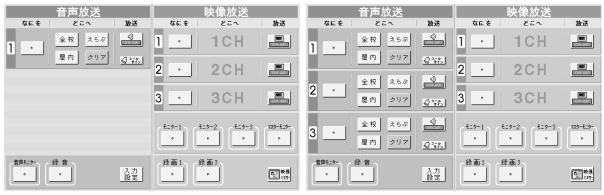
2	制　　作	映像ミキサーの映像と音声ミキサーの音声をVTR3に録画する （映像ミキサーを「無」に設定した場合、カメラ1の映像と音声ミキサーの音声をVTR3に録画します）

1

電源スイッチを押す



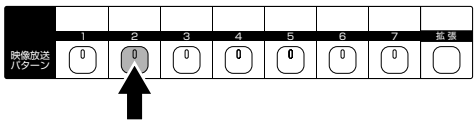
音声・映像放送画面が表示される※1



1系統　　3系統

2

映像放送パターンスイッチ[2]を押す



映像放送の状態が映像放送画面側に表示される※1

モニター1でVTR1、モニター3でカメラ4、マスターモニターで映像ミキサーの映像を確認できます※2

3

映像放送画面右下の「映像ミキサー」を押す

映像ミキサー画面となる

「A」入力選択はVTR1、「B」入力選択はカメラ4となっています。

4

VTR1を再生状態に、VTR3を録画状態にする

5

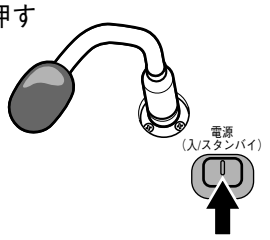
映像ミキサーで映像を、音声ミキサーで音声を操作し、VTR3に録画する

6

終了したら、VTR1、VTR3を停止し、映像放送パターンスイッチ[2]を押す（スイッチの表示灯が消える）

7

電源スイッチを押す



電源が切れる

※1　映像ミキサーを「無」に設定した場合、映像放送画面（右下）に 映像ミキサー は表示されません。

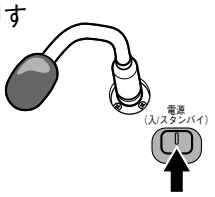
※2　映像ミキサーを「無」に設定した場合、モニター3、マスターモニター、録画3はすべてカメラ1の映像となります。

やさしい使いかた(映像放送パターン操作)

3,4	ダビング	3. VTR1からVTR3へ映像と音声のダビングをする（YC：S-ビデオの場合） 4. VTR1からVTR3へ映像と音声のダビングをする（通常ダビング）

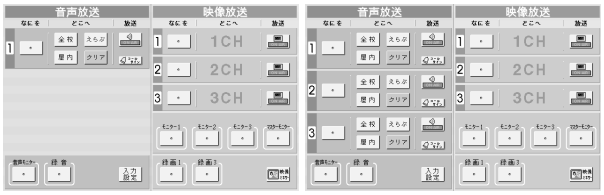
1

電源スイッチを押す



⇨

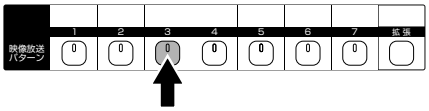
音声・映像放送画面が表示される※1



1系統　　3系統

2

映像放送パターンスイッチ3または(4)を押す



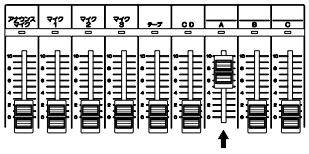
⇨

録画の状態が映像放送画面側に表示される※1

YC　　通常

(VTR1をVTR3に録画する状態を示しています
モニター1でVTR1を、モニター3とマスターモニターで
VTR3の映像を確認できます）※2

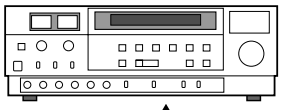
パターン3（YCダビング）の場合のみ
音声放送ミキサーの音量つまみAを上げる※3



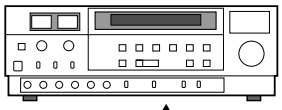
⇨ VTR1の音声がVTR3へ出力される

3

VTR1を再生し、VTR3を録画状態にする



PLAY

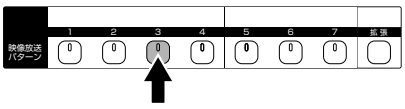


REC

⇨ VTR1の映像がVTR3に録画される

4

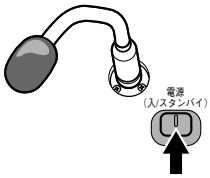
終ったら再び映像放送パターンスイッチ3または4を押す



⇨ VTRを止める
音声放送ミキサーの音量つまみを下げる

5

電源スイッチを押す



⇨ 電源が切れる

YCダビング（映像放送パターンスイッチ3）はVTR1、VTR3がS-VHSのときのみできます。

※1　映像ミキサーを「無」に設定した場合、映像放送画面（右下）に 映像ミキサー は表示されません。

※2　映像ミキサーを「無」に設定した場合、モニター3、マスターモニター、録画3はすべてカメラ1の映像となります。

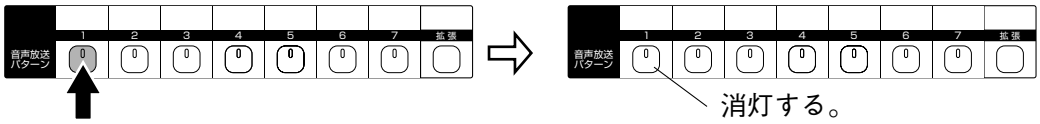
※3　音量は出力レベルメーターで確認できます。最大音量が0 dBを超えない程度に音量つまみで調節してください。

音声放送パターン、映像放送パターンの使用上の注意

何らかの放送や録音・録画が行われている状態で、音声放送パターン・映像放送パターン（後述の「拡張パターン」を含みます）を実行すると、そのとき行なわれていた動作内容は原則として無効となります。大切な放送や録音・録画が中断される恐れがありますので、音声放送パターンや映像放送パターンを実行する前に、何らかの作業が行われていないか必ず確認してください。
タッチパネル画面上に緑色やオレンジ色の項目がある場合は、何らかの作業が行われていると思われます。他の人に確認し、処理を終了して良い場合は操作部の電源スイッチをいったん切ってから入れ直してください。
なお、作業が終了したら、後に使う人のために必ず電源スイッチを切ってから席を離れてください。（電源スイッチが入っていなくても、主電源スイッチが入っていればリモコン放送可能です。）引き続き他のパターンを使用して、別の作業を行ないたい場合は、以下の手順で操作してください。（パターン1からパターン2への変更の例で示します。）

1

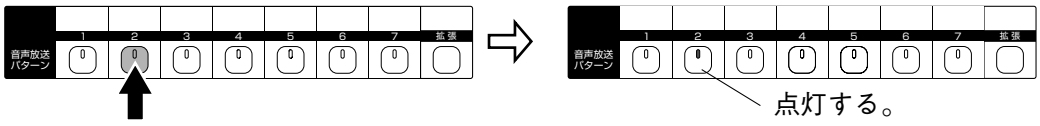
点灯している音声放送パターンスイッチ1を押す



音声放送パターンスイッチ1の内容が取り消されます。

2

画面下段の「処理中です。しばらくお待ちください。」の表示が消えたら、音声パターンスイッチ2を押す



音声放送パターンスイッチ2の内容が設定されます。

次のような場合、パターン内容が正しく実行されない場合がありますので注意してください。
・上記1の処理が完了する前に2の操作を行う。
・上記2の操作を行なわず、パターン実行中に別のパターンスイッチを押す。
必ず、1の操作後、「処理中です。しばらくお待ちください。」の表示が消えたのを確認してから、2の操作を行なってください。
1の処理中や1の処理が完了する前に2の操作を行なった場合は、電源を入れ直した後、2の操作を行なってください。

メモ
音声放送パターンを実行後、音声関係の操作を行なった場合も、音声放送パターンスイッチは消灯します。
映像放送パターンを実行後、映像関係の操作を行なった場合も、映像放送パターンスイッチは消灯します。
これらの場合、上記のように実行したパターンスイッチを再度押してもパターンスイッチの内容は取り消されませんので、電源スイッチを切り、再度入れ直してください。
ただし、次のような例外があります。

- 音声3系統のシステムで音声放送パターンを実行後、その音声放送パターンで全く使用していない系統の設定を変更した場合
- 映像放送パターンを実行後、映像放送ミキサーの「入力選択（A/B）」・「録画1」・「録画3」以外の設定を変更した場合

これらの操作のみが行なわれた場合は、パターンスイッチは点灯したままとなり、再度押すとその操作を含めて設定が取り消されます。
なお、操作により設定変更され、音声放送パターンスイッチが消灯した後で誤ってパターンスイッチを再度押してしまった場合、録音・録画が行われているとエラーメッセージが表示される事があります。この場合、「確認」を押してパネルを閉じてください。引き続きパターンスイッチを使って作業を行う場合は、電源スイッチをいったん切って入れ直してください。

画面操作のしかた

■画面の出しかた

●本機はパネル面のスイッチや音量つまみと、操作モニターの画面で操作します。

1 操作部の電源スイッチを押す

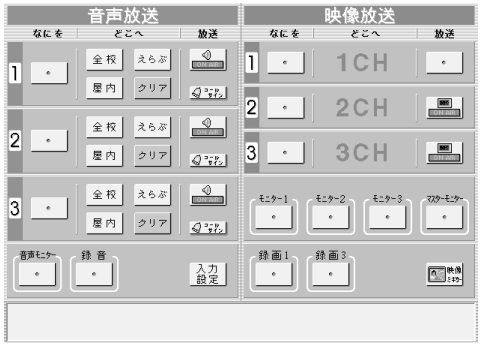
⬇

操作モニターに音声、映像放送画面がでます。

ご注意

電源を「入」または「切」にした後、数秒間は電源スイッチ、緊急放送／一斉放送スイッチ、パターンスイッチなどのスイッチは操作できません。

音声、映像放送画面※



・音声放送1系統のときは「2系統、3系統」は表示されません。

2 操作したい項目を選択する

音 声 放 送：放送または録音するとき。
音声ミキサーを使用するとき
（映像編集、アフレコの場合も。）

映 像 放 送：VTR、カメラ、映像ミキサーの映像を放送するとき。（モニター1、モニター2、モニター3、マスターモニターの選択もできます。）

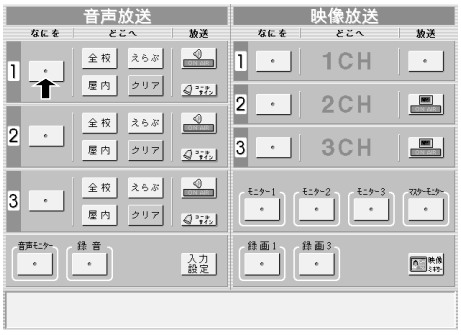
録画1、録画3：録画するとき、アフレコ、ダビングをするとき。

入 力 設 定：44ページをお読みください。

映像ミキサー：操作モニターの画面で操作します。（42ページをお読みください。）

■選択のしかた

操作画面の希望の項目を押す※



子画面があるときは、子画面が表示され、その中から更に必要な項目を指で押します。[とじる]を押すと、元の画面に戻ります。）

例：子画面（音声放送「なにを」）

・直接選択する項目（例.「放送」など）は、選択されるとスイッチの色が緑やオレンジに変わります。
・具体的な操作は、以降の説明をお読みください。

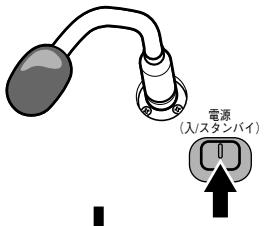
※ 映像ミキサーを「無」に設定した場合、映像放送画面に 映像ミキサー は表示されません。

音声放送のしかた

■音声放送のしかた

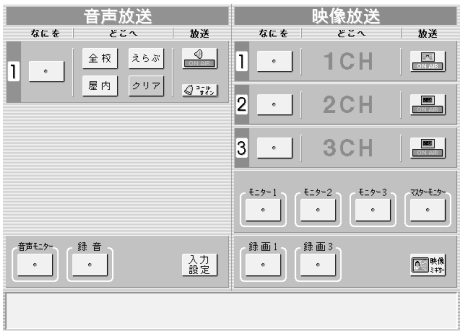
● 「なにを」「どこへ」「放送」するのか決めます。

操作部の電源スイッチを押す

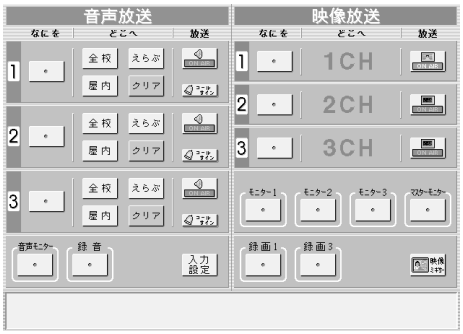


操作モニターに音声、映像放送画面がでます。

音声（1系統）、映像放送画面

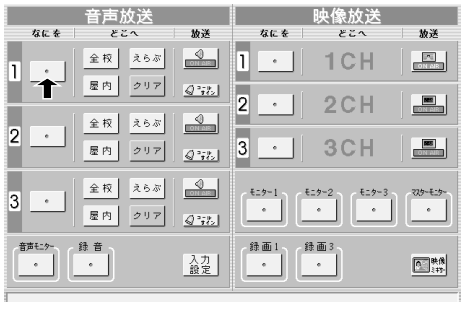


音声（3系統）、映像放送画面



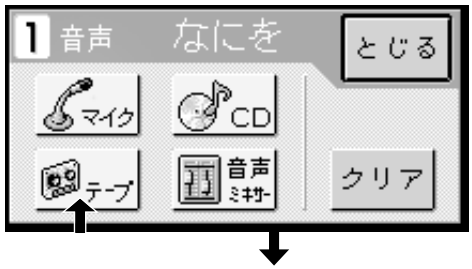
●「なにを」の選択

1 音声放送「なにを」を押す



「なにを」選択画面が表示されます。

2 放送するものを押す



放送するものが緑色に変わります。

マ　イ　ク：アナウンスマイクの音
音声ミキサー：音声ミキサーでミキシングした音
テ　ー　プ：テープレコーダーの再生音
C　　D：CD（コンパクトディスク）プレーヤーの再生音
ク　リ　ア ： 選択を解除する場合

ご注意

マイク、CD、テープを選択した場合は、音量は固定となります。（音声ミキサー音量つまみで音量は調節できません。また、出力レベルメーターは表示しません）

3 ［とじる］を押す

音声、映像放送画面に戻り、「なにを」欄に選択したものが表示されます。

・3系統の場合、各系統ごとに1～3を繰り返し、なにを放送するか選択します。

音声放送のしかた

●「どこへ」の選択

1 音声放送「どこへ」の中から放送する場所を選んで押す

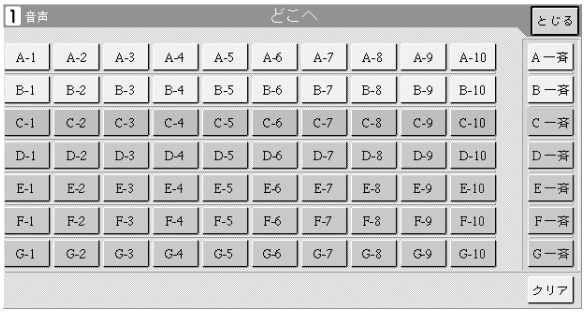
放送する場所が緑色に変わります。

全　校：全校のスピーカーに放送する。
屋　内：予め設定したスピーカーに放送する。
えらぶ：個々にスピーカー系統を入り切りする場合
クリア：選択を解除する場合

3系統の場合、これを繰り返す。

2 ［えらぶ］を選択した場合は、音声「どこへ」画面※1が表示され、その中から操作させるスピーカー系統番号を押す（番号が緑色に変わります。これを繰り返し、複数個選択可能）

音声「どこへ」画面
（3系統、リレーユニット6台接続の場合）※2



「A～G一斉」は緊急リレーを示します。「A～G一斉」のどれかを選択すると、その系統に接続されているリレーユニットの［1］から［10］のスピーカー表示がすべてOFFになります。

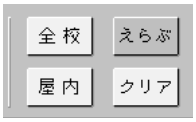
また、その系統に接続されているすべてのリレーユニットの「一斉」がすべて緑色（ON）に変わります。この例では、「A一斉」を押した場合「A－1」～「B－10」がOFF、「A一斉」と「B一斉」がONになります。
教室用スピーカーにアッテネーターが付いている場合、「A～G一斉」を選んで放送したときは、スピーカーのアッテネーターが無効となります。［1］～［10］を選んで放送したときは、アッテネーターが有効になります。

※1：レイアウト変更により自由配置されたデータの場合、表示が異なります。
※2：選択した放送系統以外のスイッチも表示（灰色）されますが、押すことはできません。

3 選択したら、［とじる］を押す。

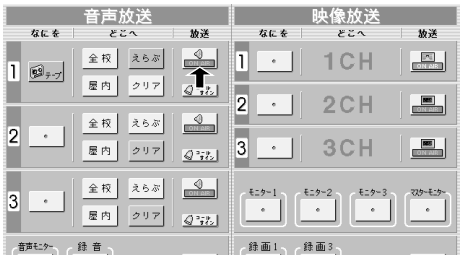
⬇

音声、映像放送画面に戻り、「なにを」欄の［えらぶ］が緑色に変わります。



●「放送」の選択

1 ON AIR を押す



↓

ON AIR ボタンがオレンジ色に変わります。（オレンジ色は放送ONを示しています。）

2 コールサインを鳴らすときは、コールサイン を押す
（緑色に変わり約4秒間コールサインが鳴ります。）

3 「なにを」で選択した機器を動作させる
「音声ミキサー」を選択したら、ミキサーの各音量つまみで音量を調節してください。

ミキサー音量は、出力レベルメーターに表示されます。最大音量が0dBを超えないように音量を調節します。

4 放送が終了したら、ON AIR を押す

↓

ON AIR ボタンが白色に戻ります。

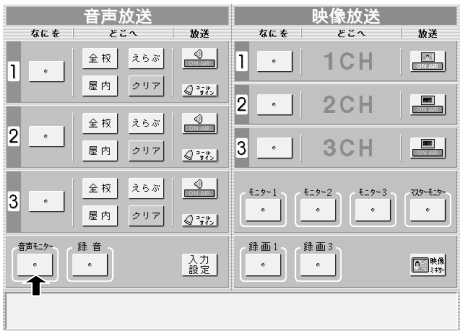
5 操作部の電源スイッチを押す

↓

操作部の電源が切れます。

■モニターのしかた

1 音声放送画面の［音声モニター］を押す



↓

モニター選択画面が表示されます。

[2]音声、[3]音声は1系統のときは表示されません。

2 モニターするものを押す

↓

押したボタンが緑色に変わります。

[1]音声、[2]音声、[3]音声：1～3系統に放送中の音
CD：CD（コンパクトディスク）プレーヤーの再生音
テープ：テープレコーダーの再生音
音声ミキサー：音声ミキサーでミキシングした音
マスターモニター：映像放送画面でマスターモニターに送り出されている音
クリア：選択を解除する場合

3 ［とじる］を押す

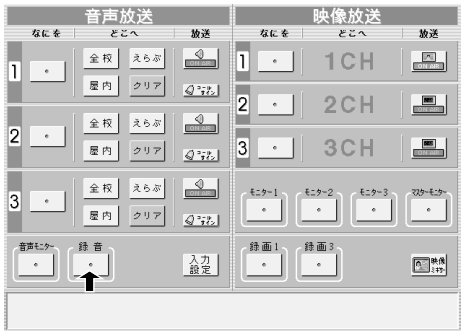
↓

音声、映像放送画面に戻り、「音声モニター」欄に選択したものが表示されます。

4 音量をモニター音量つまみで調節する。

録音のしかた

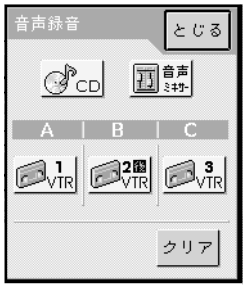
1 ［録音］を押す



⬇

録音選択画面が表示されます。

2 テープレコーダーに録音するものを押す



⬇

押したボタンが緑色に変わります。

C　　D：CD（コンパクトディスク）プレーヤーの再生音
音声ミキサー：音声ミキサーでミキシングした音
音声A、音声B、音声C：入力設定（44ページ）で設定された入力
A→VTR1、音声予備1・3※1の中から設定されたもの
B→VTR2、ワイヤレス、音声予備2※1の中から設定されたもの
C→VTR3、レピーター（マイクロホンミキサー）、ラジオの中から設定されたもの
ク　リ　ア：選択を解除する場合

※1：予備入力の名称は設定により変わる場合があります。

3 ［とじる］を押す

⬇

音声、映像放送画面に戻り、「録音」欄に選択したものが表示されます。

4 テープレコーダーを録音状態にする

5 「録音」で選択した機器を動作させて録音レベルを調節する
音声ミキサーを選択したら、ミキサーの各音量つまみで音量を調節してください。

6 録音が終了したら、テープレコーダーの録音を停止し、「録音」で選択した機器の動作を停止する

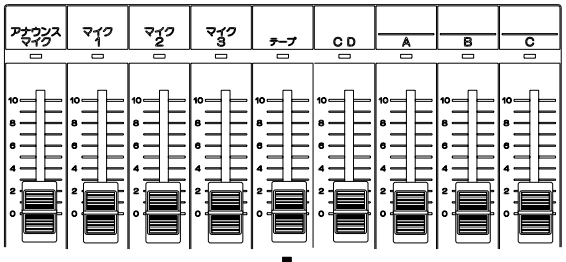
7 操作部の電源スイッチを押す

⬇

操作部の電源が切れます。

ご注意

- モニターのしかたは31ページ「モニターのしかた」をお読みください。
- 音声ミキサーでミキシングした音を録音するときは、必ずテープの音量つまみは下げてください。（上げると発振します。）

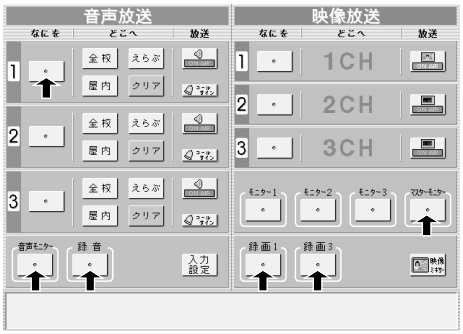


⬇

- テープレコーダーで録音したものは、個人として楽しむ他は、著作権法上の権利者に無断で使用できません。

音声ミキサー操作のしかた

1 音声放送画面の「なにを」、「録音」、「音声モニター」などに「音声ミキサー」を選択する
あるいは映像放送画面の「なにを」、「マスターモニター」、「録画1」、「録画3」などに「映像ミキサー」、「アフレコ」を選択する。



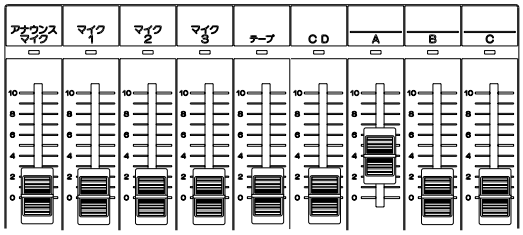
映像ミキサー、アフレコで使用するときは、音声放送画面の「音声モニター」に「音声ミキサー」または「マスターモニター」を選択します。

2 モニター音量つまみでモニタースピーカーの音量を調節する

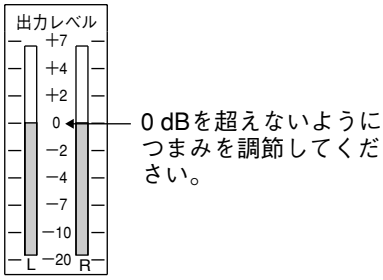
ご注意

出力レベルメーターは「音声ミキサー」を選択しているときの出力レベルを表示します。「マイク」「CD」「テープ」を選択しているときは出力レベル表示はしません。
（音量はプリセットされていますので音量調節は不要です。）

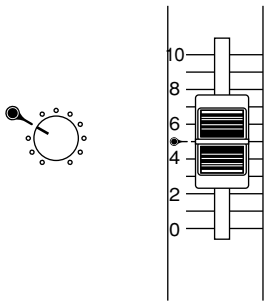
3 必要な音量つまみを上げ、ミキシングした音量を調節する



- 表示灯が点灯している音量つまみだけ調節できます。
- 音量は出力レベルメーターで確認できます。最大音量が0 dBを超えない程度につまみを調節してください。



- 付属の音量表示ラベルはいつもご使用になっている調整位置に貼り付けてご使用ください。



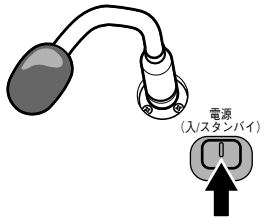
- 音声A・音声B・音声Cの設定は44ページをお読みください。

映像放送のしかた

■映像放送のしかた

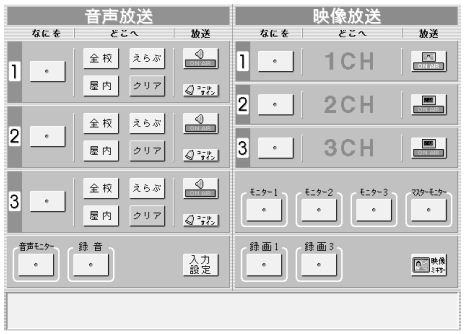
●「なにを」「放送」するのか決めます。

操作部の電源スイッチを押す



↓

操作モニターに音声、映像放送画面がでます。



●「なにを」の選択

1 映像放送「なにを」を押す

↓

「なにを」画面が表示されます。

「なにを」画面（映像）

＜映像ミキサー有り＞

＜映像ミキサー無し＞

2 放送するものを押す

↓

放送するものが緑色に変わります。（同時にマスターモニターも自動的に変わり、選択した映像と音声をモニターできます。）

VTR1、2、3　：VTR1、2、3の映像
DVD　：DVDプレーヤーの映像※1
カメラ1～4※1　：カメラ1、2、3、4の映像
書画カメラ　：書画カメラの映像
映像予備3、4　：それぞれに接続された機器の映像※2
映像ミキサー　：外部に接続した映像ミキサーで加工された映像※1

選択を解除する場合は［クリア］ボタンを押します。

※1　映像ミキサー、カメラ1～4、書画カメラを選ぶと、音声は音声ミキサーから各室のテレビへ放送されます。DVDプレーヤーの音声は音声ミキサーへ直接入力されないため、DVDプレーヤーの音声を音声予備１～３のいずれかへも入力してください。

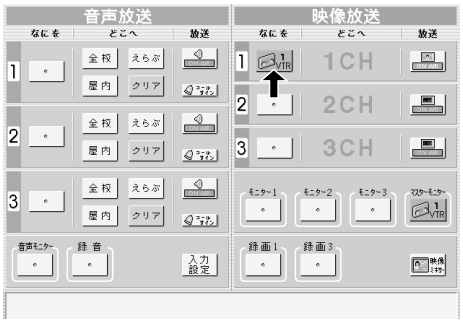
※2　予備入力の名称は設定により変わる場合があります。

3 ［とじる］を押す

↓

音声、映像放送画面に戻り、「なにを」欄に選択したものが表示されます。

（例）「なにを」にVTR1を選んだとき



4 1～3を繰り返し、2～3系統に放送するものを選択する。

●「放送」の選択

1 ON AIR を押す

↓

指定した系統の ON AIR ボタンがオレンジ色に変わります。（オレンジ色は放送ONを示しています。）

白色（放送OFF）　オレンジ色（放送ON）

これで放送可能の状態になります。「なにを」で選択した機器を動作させて放送します。

- VTRの場合は、VTRを再生状態にし、カメラの場合は、カメラを動作状態にして、被写体を写せば、放送されます。（VTRやカメラの取扱いはそれぞれの取扱説明書をお読みください。）
- 映像ミキサーを選択した場合は、音声ミキサーの各音量つまみで音量を加減してください。

2 放送が終了したら、VTRなどを止め、ON AIR を押す

↓

ボタンが白色に戻ります。

3 操作部の電源スイッチを押す

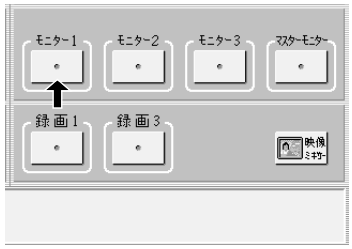
↓

操作部の電源が切れます。

■映像モニターのしかた

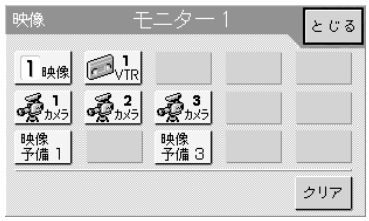
●モニター1に出す映像を選択する

1 映像放送画面の［モニター1］を押す



↓

モニター1選択画面が表示されます。



1 映像（映像系統1に放送中の映像）、VTR1、カメラ1～カメラ3、映像予備1、映像予備3※1の中から選択できます。

※1：予備入力の名称は設定により変わる場合があります。

2 モニターするものを押す

↓

押したボタンが緑色に変わります。

3 ［とじる］を押す

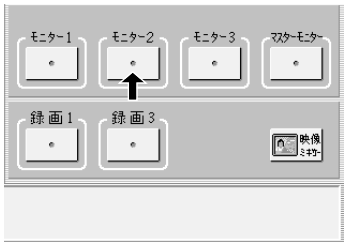
↓

音声、映像放送画面に戻り、「モニター1」欄に選択したものが表示されます。

映像放送のしかた

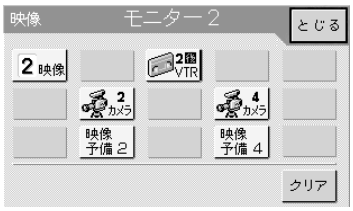
●モニター2に出す映像を選択する

1 映像放送画面の［モニター2］を押す



⬇

モニター2選択画面が表示されます。



2映像（映像系統2に放送中の映像）、VTR2、カメラ2、カメラ4、映像予備2、映像予備4※1の中から選択できます。

※1：予備入力の名称は設定により変わる場合があります。

2 モニターするものを押す

⬇

押したボタンが緑色に変わります。

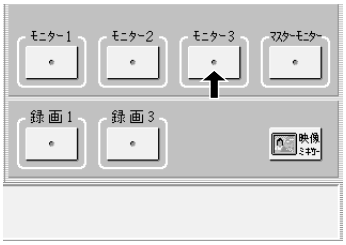
3 ［とじる］を押す

⬇

音声、映像放送画面に戻り、「モニター2」欄に選択したものが表示されます。

●モニター3に出す映像を選択する

1 映像放送画面の［モニター3］を押す



⬇

モニター3選択画面が表示されます。

3映像（映像系統3に放送中の映像）、DVD、カメラ1～カメラ4、書画カメラ、VTR1～VTR3、映像予備3、映像予備4※1、映像ミキサーの中から選択できます。

※1：予備入力の名称は設定により変わる場合があります。

2 モニターするものを押す

⬇

押したボタンが緑色に変わります。

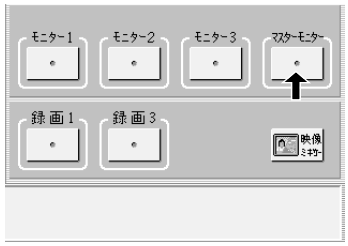
3 ［とじる］を押す

⬇

音声、映像放送画面に戻り、「モニター3」欄に選択したものが表示されます。

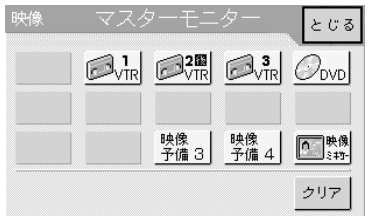
●マスターモニターに出す映像を選択する

1 映像放送画面の［マスターモニター］を押す



↓

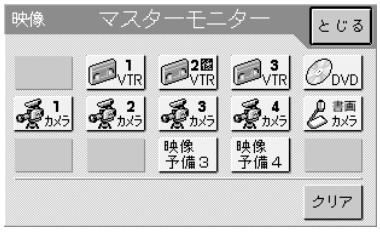
マスターモニター選択画面が表示されます。



＜映像ミキサー有り＞

DVD、VTR1～VTR3、映像予備3、映像予備4※1、映像ミキサーの中から選択できます。

※1：予備入力の名称は設定により変わる場合があります。



＜映像ミキサー無し＞

2 モニターするものを押す

↓

押したボタンが緑色に変わります。

3 ［とじる］を押す

↓

音声、映像放送画面に戻り、「マスターモニター」欄に選択したものが表示されます。

ご注意

モニター1～モニター3、マスターモニターを選ぶ順序はどれを先に選んでもかまいません。

ご注意（カメラ・書画カメラを使用する場合）

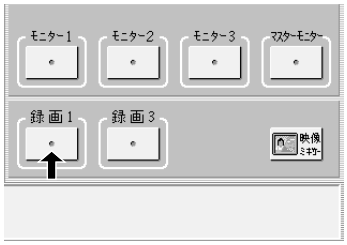
- カメラ1～4、及び書画カメラを放送（録画、またはマスターモニター出力）する場合、映像ミキサーの接続の有無によって、以下の制限があります。
- 映像ミキサーを「有」に設定した場合
  「なにを」（録画1・3、マスターモニター）画面でカメラ1～4または書画カメラを直接選択することはできません。映像ミキサーを選択し、映像ミキサー画面で使用する機器を選択してください。なお、映像ミキサー画面については、42ページ以降をお読みください。
- 映像ミキサーを「無」に設定した場合
  カメラ1～4または書画カメラを放送出力（録画、マスターモニター出力）している場合、他の放送出力・録画出力・マスターモニターにそれ以外のカメラ（書画カメラ）を出力することはできません。異なるカメラ（書画カメラ）を出力しようとした場合、最後に指定した機器に、すべての出力が変更されます。

録画のしかた

■通常録画のしかた

VTR2へは録画できません。

1 映像放送画面の［録画1］を押す（VTR1に録画するとき）



↓

VTR1録画選択画面が表示されます。

＜映像ミキサー有り＞

＜映像ミキサー無し＞

（予備入力の名称は設定により変わる場合があります。）

2 VTRに録画するものを選ぶ

↓

押したボタンが緑色に変わります。選択できるボタンは、次のとおりです。
DVD
映像予備1または映像予備4、映像ミキサー※

3 ［とじる］を押す

↓

音声、映像放送画面に戻り、「録画1」欄に選択したものが表示されます。

4 VTR1を録画状態にする

5 録画1で選択した機器を動作させて録音レベルを調節する
映像ミキサーを選択したら、音声ミキサーの各音量つまみで音量を加減してください

6 録画が終了したら、VTR1やDVDなどを停止する

7 操作部の電源スイッチを押す

↓

操作部の電源が切れます。

モニターの選択

映像放送のモニター1～モニター3と同じです。

VTR3に録画する場合

手順はVTR1の場合と同じです。

VTR3録画選択画面

＜映像ミキサー有り＞

＜映像ミキサー無し＞

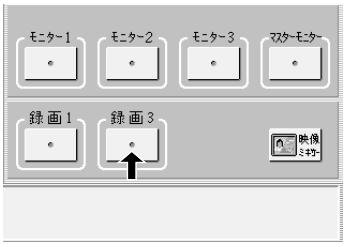
※ 映像ミキサーを「有」に設定した場合は、1カメラ ～ 4カメラ と 書画カメラ は表示されません。
映像ミキサー、カメラ1～4、書画カメラを選択すると音声は、音声ミキサーから出力されます。
1YC 2YC 1YC を選択すると、VTR3のYC端子側にだけ映像が出力されます。VTR3がS-VHS対応でないときは、これらを選択しないでください。
映像ミキサーを「無」に設定した場合は、映像ミキサー は表示されません。また、前ページの「重要」（カメラ・書画カメラを使用する場合）を合わせてお読みください。
映像ミキサー を選択すると、映像ミキサーからの出力がそのままVTR3の録画映像として出力されます。YCとNTSCを相互変換して出力する映像ミキサーの場合、YCとNTSCの両端子に同じ映像が出力されますので、必要に応じてVTR側で入力選択操作を行ってください。映像ミキサー画面については、42ページをお読みください。

■ダビングのしかた

ダビングはVTR1またはVTR2を再生に、VTR3を録画にして行います。ダビングはYC（Sビデオ）で行う場合と、通常ダビングの場合があります。

●通常ダビングの場合

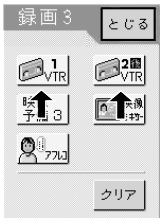
1 映像放送画面の［録画3］を押す



↓

VTR3録画選択画面が表示されます。

2 ［VTR1］（VTR1をタビングするとき）または［VTR2］（VTR2をダビングするとき）を押す



＜映像ミキサー有り＞

＜映像ミキサー無し＞

↓

［VTR1］または［VTR2］が緑色に変わります。

3 ［とじる］を押す

↓

音声、映像放送画面に戻り、「録画3」欄に選択したものが表示されます。

4 VTR1またはVTR2を再生状態に、VTR3を録画状態にする

↓

VTR1からVTR3へダビングされます。または VTR2からVTR3へダビングされます。

5 ダビングが終了したら、VTR1またはVTR2を停止する。つづいてVTR3を停止する

6 操作部の電源スイッチを押す

↓

操作部の電源が切れます。

モニターの選択

映像放送のモニター1～モニター3と同じ操作で選択できます。次のように選択すると、両方の画面をモニターできます。

モニター1	→	VTR1
モニター2	→	VTR2
モニター3、マスターモニター	→	VTR3

録画のしかた

●YCダビングの場合

YCでダビングする場合は、VTRはYC入出力端子付のS-VHS方式のものが必要です。S-VHS方式以外のVTRをお使いの場合は、通常ダビング（39ページ）を行なってください。

1 映像放送画面の［映像ミキサー］を押す

⬇

映像ミキサー画面が表示されます。

2 「入力選択」A、B欄の［YC入力］を押す

⬇

［YC入力］が緑色になる。

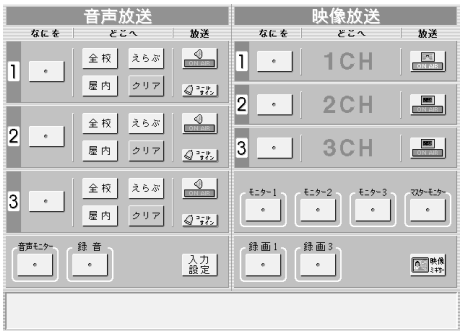
3 「入力選択」A、B欄の両方の［VTR1］(VTR1をダビングするとき）または［VTR2］(VTR2をダビングするとき）を押す

映像ミキサーではワイプ、モザイクなどの特殊効果は使用せず、A側またはB側の映像が全面に表示されるよう設定します。

4 ［とじる］を押す

⬇

音声、映像放送画面に戻ります。



5 映像放送画面の［録画3］を押す

⬇

録画3選択画面が表示されます。

6 ［映像ミキサー］を押す

⬇

［映像ミキサー］が緑色に変わります。

7 ［とじる］を押す

⬇

音声、映像放送画面に戻り、「録画3」欄に「映像ミキサー」と表示されます。

8 VTR1またはVTR2を再生状態に、VTR3の入力切り換えスイッチをYC入力端子に切り換え、録画状態にする
（入力切り換えの操作方法は、ご使用のVTRの取扱説明書をご覧ください。）

↓

VTR1からVTR3へダビングされます。または
VTR2からVTR3へダビングされます。

9 音声ミキサーの音量つまみAを上げて、音量を調整する
（あらかじめ44ページをご覧のうえ、音量つまみAの設定をしてください。）

10 ダビングが終了したら、VTR1またはVTR2、VTR3を停止し、VTR3の入力切り換えスイッチをノーマルに戻す

11 操作部の電源スイッチを押す

↓

操作部の電源が切れます。

ご注意
- モニターの選択は映像放送（35〜37ページ）と同じです。
- YCダビング中のYC出力をモニターするにはYC用（S-VHS）のモニターが必要です。

■アフレコのしかた

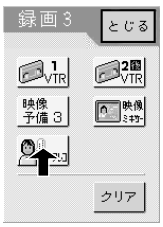
VTR3をアフレコ状態にし、音声ミキサーからの音を録音します。（アフレコ機能付きのVTRが必要です。）

1 映像放送画面の［録画3］を押す

↓

VTR3録画選択画面が表示されます。

2 ［アフレコ］を押す



↓

［アフレコ］が緑色に変わります。（アフレコをOFFにするには、［クリア］を押します。

3 ［とじる］を押す

↓

音声、映像放送画面に戻り、「録画3」欄に「アフレコ」が表示されます。

4 VTRをアフレコ状態にし、音声ミキサーの音量つまみで、ミキシング音量を調整し、録音する

5 アフレコが終了したら、VTR3を停止し、VTR3のアフレコ切り換えスイッチをノーマルに戻す

6 操作部の電源スイッチを押す

↓

操作部の電源が切れます。

映像ミキサーへの入力切り換え

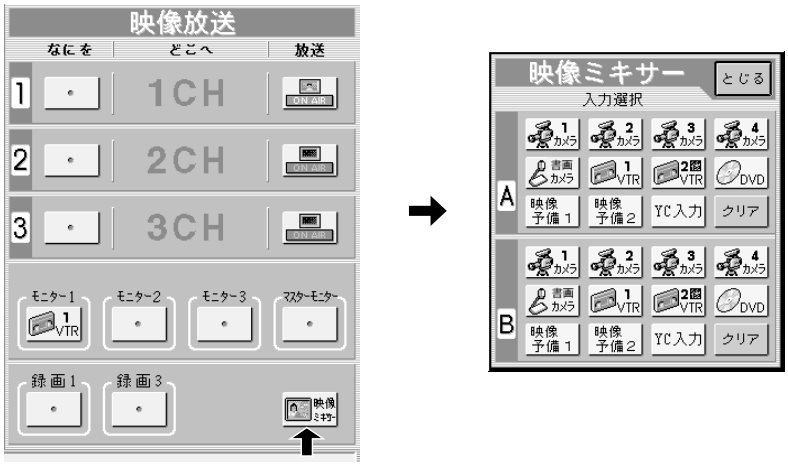
本機に映像ミキサーを接続し、映像ミキシング、各種映像効果などをかけることができます。
ここでは本機で表示される映像ミキサー画面でできる機能とその操作方法について説明します。
映像ミキサー画面では、映像ミキサーへ入力する2系統の映像を選択します。

ご注意

- 映像ミキサーで使える機能は、接続する映像ミキサーにより異なります。接続した映像ミキサーの取扱説明書を参照してください。
- 映像ミキサーを使用する場合、映像ミキサーを「有」に設定する必要があります。この設定が行われていない場合、各映像関連の画面で映像ミキサーを選択することができません。
  設定および映像ミキサーの接続は、工事説明書をお読みください。

■映像ミキサー画面を表示する

映像放送画面の［映像ミキサー］ボタンを押すと、映像ミキサー画面が表示されます。
映像ミキサー画面を閉じたい場合は、右上にある［とじる］ボタンを押します。映像ミキサー画面が閉じ、
音声・映像放送画面に戻ります。



■入力映像の切り換え

映像ミキサー画面の「入力選択」欄A・Bから、映像ミキサーへ入力する映像を選びます。

ご注意

- YC端子に入力されている機器を選択する場合は、入力選択をクリアし［YC入力］を押して選択状態にしてから、機器を選択してください。その後、通常のBNC端子に入力されている機器（NTSC入力）に選択を変更するときには、入力選択をクリアしてから再度［YC入力］を押して選択されていない状態にし、機器を選択してください。
  NTSC入力・YC入力の切り換えは、A側・B側それぞれ独立して行えます。
- 映像ミキサーへの入力映像は4系統（A側、B側それぞれ2系統）選択できますが、画面で選択できるのは2系統で映像パターンにも2系統だけ登録されます。

■ミキサーで合成された映像を録画する

ミキサー機能で合成された映像は、VTR1またはVTR3に出力し録画することができます。
映像放送画面の［録画1］ボタンまたは［録画3］ボタンで設定を行います。

入力設定・変更

■ラジオ・予備入力・マイクロホンミキサー(レピーター)などを放送、録音するとき

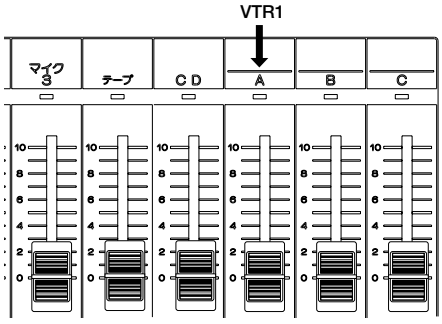
（音声ミキサーA、音声ミキサーB、音声ミキサーCの入力の設定）

音声ミキサーの音量つまみA、音量つまみB、音量つまみCは、次のように3入力の中から1つを選択することができます。

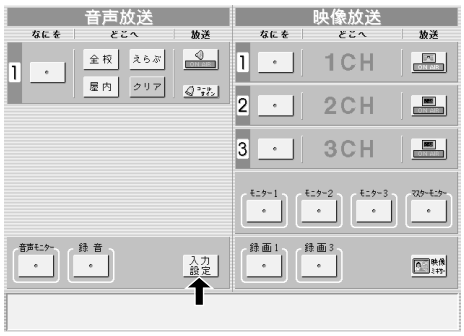
A：VTR1、音声予備1、音声予備3※1の中から1つ選択。
B：VTR2、ワイヤレス、音声予備2※1の中から1つ選択。
C：VTR3、ラジオ、レピーター（マイクロホンミキサー）の中から1つ選択。

※1：予備入力の名称は設定により変わる場合があります。

●（例）入力AをVTR1に設定する



1 音声放送画面の［入力設定］を押す



⬇

入力設定画面が表示されます。

2 ［VTR1］（選択したいもの）を押す

⬇

［VTR1］（選択したもの）が緑色に変わります。

・B、C入力も変更したい場合は、Aと同様に選択します。

3 ［とじる］を押す

⬇

音声、映像放送画面に戻ります。

ご注意

- この画面を用いて「音声A、B、C設定」を手で変更して、電源スイッチをOFFにすると、次の電源ONからその内容が反映されます。
  音声放送パターン（登録された内容）により変更された場合は一時的なもので上記の内容は保持されます。
- 音声ミキサーAに予備入力1を設定して使用する場合は、あらかじめ予備入力レベル調整つまみ（11ページ、㉔）を回して適正な音量になるように調節してください。このとき音声ミキサーのつまみAは中央付近に設定してください。

■音声ミキサーの設定

音声ミキサーの音量つまみを個別に有効または無効にできます。無効にすると、該当する音量つまみを操作しても音が出なくなります。

1 音声放送画面の［入力設定］を押す

⬇

入力設定画面が表示されます。

2 音声ミキサーの動作させたい（動作させない：OFF）入力を押す

⬇

動作させるもの→緑（ON）に設定。
動作させないもの→白（OFF）に設定。
（ONに設定したものは、パネルの音声ミキサーの表示灯がそれぞれ点灯します。）

3 設定が終わったら［とじる］を押す

⬇

音声、映像放送画面に戻ります。

■VTR2入力端子の切り換え

VTR2は、前面と後面に入力端子があり、画面上で切り換えられます。

1 音声放送画面の［入力設定］を押す

⬇

入力設定画面が表示されます。

2 ［前面］または［後面］を押す

3 設定が終了したら［とじる］を押す

⬇

音声、映像放送画面に戻ります。

音声・映像放送パターン操作の内容変更

■音声・映像放送パターン操作

本機は、あらかじめ放送や、録音、録画の操作を音声・映像各37個（標準7個、拡張30個）のスイッチに登録しておき、パターンスイッチを押すと、その内容を呼び出して動作します。出荷時は、標準パターン音声7つ・映像6つのパターンが登録されています。

■内容変更・登録のしかた

新たに登録すると、前に登録されていた状態は消されます。

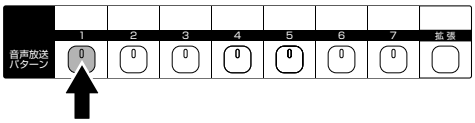
（例）音声放送パターンスイッチ1（個別放送1）「アナウンスマイク」の音を個別指定されたスピーカーに放送する。これを「テープ」の音を「全校」のスピーカーに放送するように変更します。

1 操作パネルの電源スイッチを押す

⬇

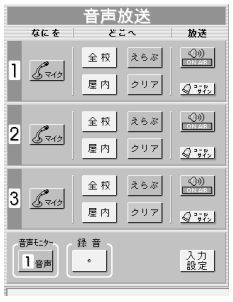
操作モニターに音声、映像放送画面が出ます。

2 音声放送パターンスイッチ1を押す



⬇

音声放送画面が表示されます。
（ここまではパターン操作と同じです。）



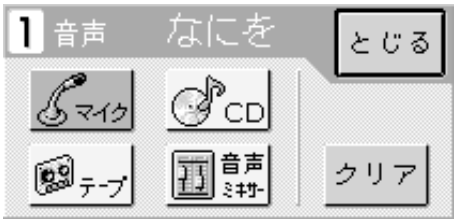
3 必要な変更を行う

ここでは「なにを：アナウンスマイク→テープ」「どこへ：個別→全校」の変更を行ないます。

①［なにを：アナウンスマイク］表示を押します。
（変更したいものを選択する）

［なにを］選択画面が表示されます。

⬇



②［テープ］を選択したのち［とじる］を押します。

③［どこへ：全校］を押します。（変更したいものを選択する）

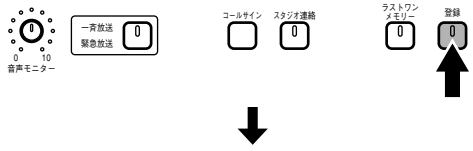
⬇

［全校］が緑色に変わります。

4 パターンスイッチへ登録する

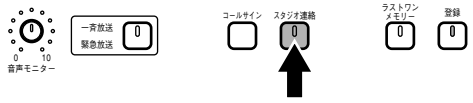
パターンスイッチへは、現在表示されている状態が登録されます。

① 登録スイッチを押します。



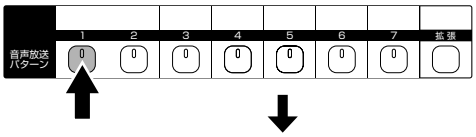
登録スイッチの表示灯が点灯する。

② スタジオ連絡スイッチを押します。



（本来のスタジオ連絡機能は動作しません）

③ 標準パターンに登録する場合は音声放送パターンスイッチ1（登録したいパターンスイッチ）を押します。



スイッチの表示灯が3秒間点滅します。

④ 表示灯点滅中に再び音声放送パターンスイッチ1を押します。
表示灯点滅が止まり、登録されます。

⑤ 拡張パターンに登録したい場合は、①、②の操作の後に音声放送パターン拡張スイッチを押します。音声、映像放送画面の上に30個のスイッチが表示されます。

⑥ 設定したいパターンスイッチを押します。登録確認のパネルが表示されます。登録するときは[設定]を、取り消すときは［取り消し］を選択します。

5 音声放送でパターンスイッチを押したときに、コールサインを流したい場合

① 登録スイッチを押します。
② スタジオ連絡スイッチを押します。
③ コールサインスイッチを押します。
（本来のコールサイン機能は動作しません）
④ 音声放送パターンスイッチ1（登録したいパターンスイッチ）を押します。スイッチの表示灯が3秒間点滅します。
⑤ 表示灯点滅中に再び音声パターンスイッチ1を押します。表示灯点滅が止まり、登録されます。
⑥ 拡張パターンに登録したい場合は、以下の手順で操作してくだい。
1. 登録スイッチを押します。
2. スタジオ連絡スイッチを押します。
3. 音声放送パターン拡張スイッチを押します。
音声、映像放送画面の上に30個のスイッチが表示されます。
4. 30個のスイッチの左上部にある［コールサイン］ボタンを押して緑色にします。
5. 設定したいパターンスイッチを押します。登録確認のパネルが表示されます。
登録するときは［設定］を、取り消すときは[取り消し]を選択します。

6 確認するには、操作パネルの電源スイッチを切り、再び電源「入」にして、音声放送パターンスイッチ1を押すと、登録した画面が表示されます。

音声・映像放送パターン操作の内容変更

■新規設定登録のしかた

1 音声放送、映像放送、録画について、各項目の説明を参照しながら、必要な設定をしてください

- 音声放送パターンスイッチへの登録は、操作画面に現在表示されている音声放送の状態が登録されます。
- 映像放送パターンスイッチへの登録は、操作画面に現在表示されている映像放送の状態が登録されます。

2 操作画面設定ができたら、登録したいパターンスイッチについて、前項4、5、6の手順で登録してください
(前に登録されていた状態は消されます。)

ご注意

- 映像放送の「なにを」「モニター」「録画」のどこにも［映像ミキサー］が設定されていない場合、映像ミキサー画面の設定内容はパターンスイッチには登録されません。
- パターンの登録内容を変更した場合、本書の前半部分の内容と動作が変わります。他の利用者に無断で内容を変更しないようにしてください。また、本書の最後にある「パターン登録内容記述シート」などを利用し、変更内容が明確になるようにしてください。

■入力設定内容について

音声・映像放送パターン登録時に、入力設定の音声ミキサーのA、B、C入力の設定を変更して登録した場合は、音声放送パターンごとにA、B、C入力の設定を変更することができます。またこのパターンスイッチを押すことにより、初期のA、B、C入力設定と変わることがありますので注意してください。

ご注意

- [なにを]、[録音]、[モニター]で[音声ミキサー]を選択してある場合に入力設定の[音声ミキサーボリューム有効／無効]と[音声A、B、C]のスイッチの内容が登録されます。
- [録音]で[音声A、B、C]のどれかを選択してある場合に対応する入力設定[A、B、C]のスイッチの内容が登録されます。

■放送パターンデーターのバックアップについて

・拡張パターンに登録したデータはフロッピーディスクにバックアップすることができます。
・拡張パターンに空きがある場合は、標準パターンに登録した内容と同じ設定を拡張パターンにも登録しておくことをおすすめします。万一のときには、バックアップデータから再度、標準パターンに登録ができます。
・内容変更、登録を行なった場合のデータバックアップは販売店に依頼してください。

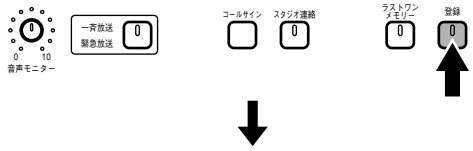
前と同じ状態で使いたい（ラストワンメモリーのしかた）

操作部の電源を切る前の状態を記憶し、次に使用するとき同じ状態で使用します。（映像操作のみ）

■記憶（登録）するとき

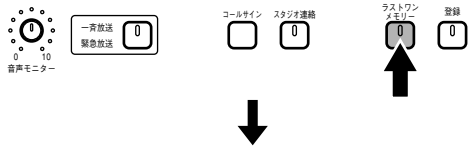
1 映像放送、映像ミキサー、録画など、映像操作画面で記憶しておきたい状態を設定する
画面に表示されている状態が記憶されます。

2 登録スイッチを押す



登録スイッチの表示灯が点灯します。

3 ラストワンメモリースイッチを押す



登録スイッチの表示灯が消灯し、ラストワンメモリースイッチの表示灯が点灯します。
（再び押すと、登録操作がキャンセルされます）

4 操作部の電源スイッチを切る

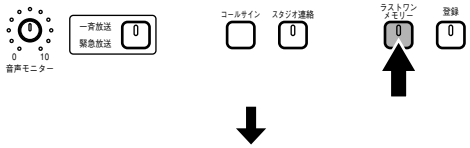
ご注意

- ラストワンメモリーの設定内容は操作部の電源スイッチを切ったときに登録されます。登録操作を行なったら、最後に必ず操作部の電源スイッチを切ってください。
- 操作部の電源スイッチを切らずに予備入力パネルの主電源スイッチを切ると、登録されている内容は記憶されません。
- 映像放送の「なにを」「モニター」「録画」のどこにも［映像ミキサー］が設定されていない場合、映像ミキサー画面の設定内容はパターンスイッチには登録されません。

■記憶を呼び出すとき

1 操作部の電源スイッチを押す

2 ラストワンメモリースイッチを押す



登録した状態が再現されます。

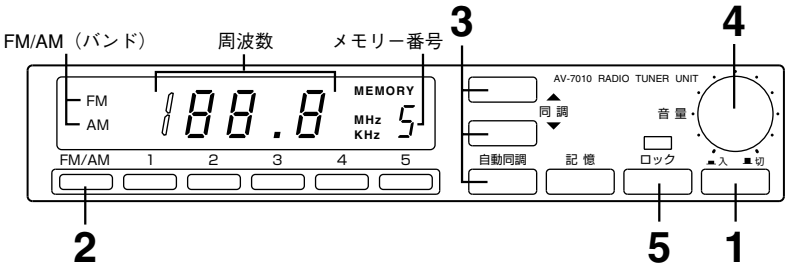
※登録された内容は、再度登録（記憶内容を更新）するまで有効です。

ご注意

電源スイッチを押してから、何か他の操作を行なった後でラストワンメモリースイッチを押した場合、以前の状態が正しく再現されない場合があります。ラストワンメモリーは、必ず電源スイッチを押した直後に押してください。また、誤ってラストワンメモリースイッチを押してしまった場合は、一度電源スイッチを切り、再度入れ直してください。

ラジオチューナーの使いかた

■操作のしかた



1 電源を入れる

チューナー入／切
スイッチを押す。

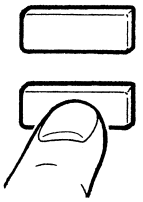
2 バンド（FM/AM）を選ぶ

FM/AM切換スイッチを押す。
押すごとにFM → AMに切り換わります。

3 放送局を選曲する

マニュアル選曲

周波数を高くする。 ▲
同調
周波数を低くする。 ▼



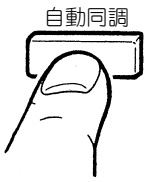
▲▼ スイッチを押す。

スイッチを押すごとに
FM → 0.1 MHz
AM → 9 kHz ずつ周波数
がかわります。

希望の局を受信したら、
押すのをやめてください。

自動選曲

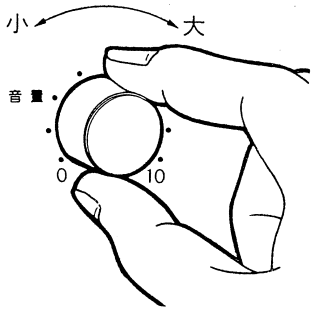
自動同調



自動同調スイッチを押す。

スイッチを押すごとに受信
周波数が高く変化し、受信
した周波数で止まります。

4 音量を調節する

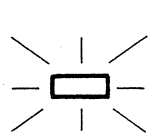


音量つまみをまわす。※

5 受信局を変えたくないとき

ロック

ロック（固定）スイッチを押す。



表示灯が点灯します。

ご注意

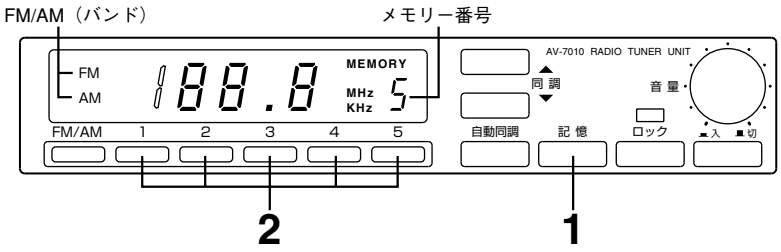
※音声ミキサーの入力設定および音量調節も必要です。
44ページ「■ラジオ・予備入力・マイクロホンミキサー（レピーター）などを放送、録音するとき」を合わせてお読みください。

■放送局のメモリーのしかた

FM5局、AM5局をメモリーできます。

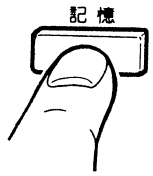
メモ

ロック状態では操作できません。ロックスイッチでロックを解除したあとに操作を行なってください。

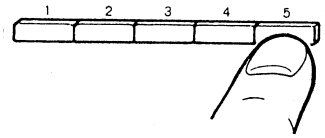


前ページの操作で好みの放送局を選曲してください。

1 記憶スイッチを押す



2



好みのメモリー選曲スイッチ（1, 2, 3, 4, 5）を押す。

メモリー完了

●前にメモリーされた放送局は解除されます。

メモリーの呼び出し
好みのメモリー選曲スイッチ（1, 2, 3, 4, 5）を押す。

●バンドを変えたいときは、FM/AM切換えスイッチを押してください。
●バンド（FM/AM）は、周波数・選曲表示に表示されています。

リモコン放送のしかた

■マルチリモートマイクロホン（AV-7042）から放送するとき

AV-7042の操作方法の詳細は、AV-7042に添付された取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 付属の記名シートに設置したスピーカーの登録番号を記入しておくと便利です。
- スタジオスピーカーはスタジオ連絡用なので、放送はされません。
- 複数のマルチリモートマイクロホン（マルチリモコンマイク）から同時に放送することは出来ません。
- マルチリモートマイクロホンからの放送中には、操作モニターにリモコン放送中の系統と「マルチリモコン放送中」を画面下の空白部に表示します。該当する系統の番号表示の上に「R」と表示されます。
- 本体の操作パネルの電源スイッチが「切」の場合は「マルチリモコン放送中」と表示されます。

一斉放送をするとき

一斉放送ボタンを押します。

一斉放送

- 表示灯点灯
- 放送中表示灯点灯
- 液晶表示部に「イッセイ　ホウソウチュウ」と表示されます。
- 本体のシステムが立ち上がるまで約5秒かかります。

ブロック放送をするとき

ご注意

あらかじめ、本体側でブロック放送の設定が必要です

放送したいブロックを放送ブロックボタンで選択します。

- 表示灯点灯
- すでに点灯しているときは放送ブロックボタンを押さないでください。
- 取消は放送ブロックボタンを再度押します。

個別放送をするとき

個別放送ボタンを押します。

個別放送

- 表示灯点灯

放送したいスピーカー番号を放送ブロックボタンで設定し、決定ボタンを押します。

決 定

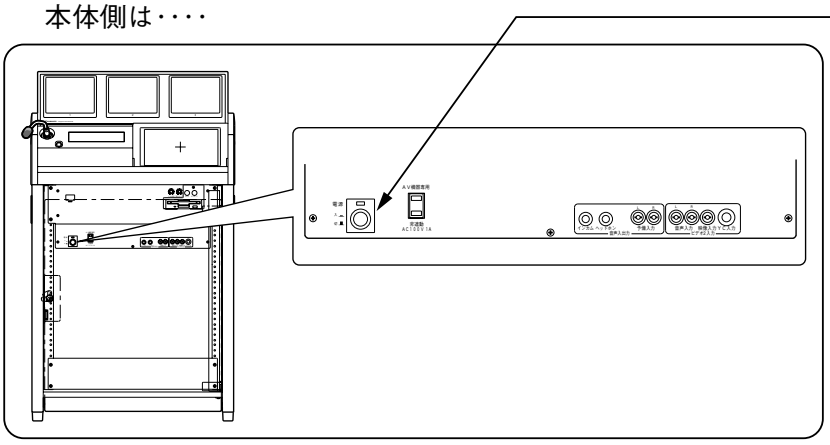
- 液晶表示部に「コベツ　ホウソウ」とスピーカー番号が表示されます。
- 最大70個設定できます。
- 取消は取消スイッチを押します。

マイクボタンを押します。

マイク

- 表示灯点灯

本体側は・・・・



操作の前には必ず予備入力パネル部にある「主電源スイッチ」を「入」にしてください。

放送します。

- フレキシブルマイクから放送します。
- 放送の前後にコールサインボタンを押すと、コールサインが鳴ります。

♫ コールサイン ♫

マルチリモートマイクロホンのライン入力を利用するとき

- ライン入力はCD、ワイヤレスアンプ、テープレコーダーなどを接続できます。（操作方法はそれぞれの取扱説明書をお読み下さい。）
- ライン入力はマイクとミキシングになります。

放送が終了したら一斉放送ボタンを再度押してください。

一斉放送

- 表示灯消灯
- 放送中表示灯消灯

放送ボタンを押します。

放 送

- ボタン上の表示灯点灯
- 放送中表示灯点灯。
- 本体のシステムが立ち上がるまで約5秒かかります。

放送が終了したら放送ボタンを再度押してください。

放 送

- ボタン上の表示灯消灯
- 放送中表示灯消灯

マイクボタンを押してください。

マイク

- 表示灯消灯

A 放送したいブロックを変更するとき

① 放送ブロックボタンで変更します。
② 放送ブロック表示灯が点灯／消灯します。

B 放送したいスピーカー番号を追加するとき

- 放送ブロックボタンで設定後、決定ボタンを押します。

設定したスピーカー番号を取り消すとき

*取消ボタンを押すと、液晶表示部に表示されているスピーカー番号が取り消されます。

リモコン放送のしかた

■AVリモコン放送（音声・映像同時に放送する）

- マルチリモートマイクロホンAV-7042のブロック放送を利用して、音声放送と映像放送（予備1から映像系統1へ、または予備2から映像系統2へ）をします。
- あらかじめブロック放送の設定が必要です。（設定は販売店にお問い合わせください。）
- AVリモコン放送中は、本機の操作モニターには、リモコン放送中の系統を画面下の空白部に表示し、該当する系統の番号表示の上に「R」の文字を表示します。本機の操作パネルの電源スイッチが「切」の場合は、「AVリモコン放送中」と表示されます。

マルチリモートマイクロホンの個別放送	音　声　放　送	映　像　放　送
100	全　校　放　送	予備1入力から映像系統1へ
110～119	スピーカー1～10（0）ブロック	予備1入力から映像系統1へ
120～129	スピーカー1～10（0）ブロック	予備2入力から映像系統2へ

マルチリモートマイクロホンから放送するとき、複数の番号が入力されたときの優先順位は、下のようになります。
① AVリモコン放送（全校）
② AVリモコン放送（ブロック）
③ 通常マルチリモートマイクロホン放送（個別放送先1～70）

■チャイム放送

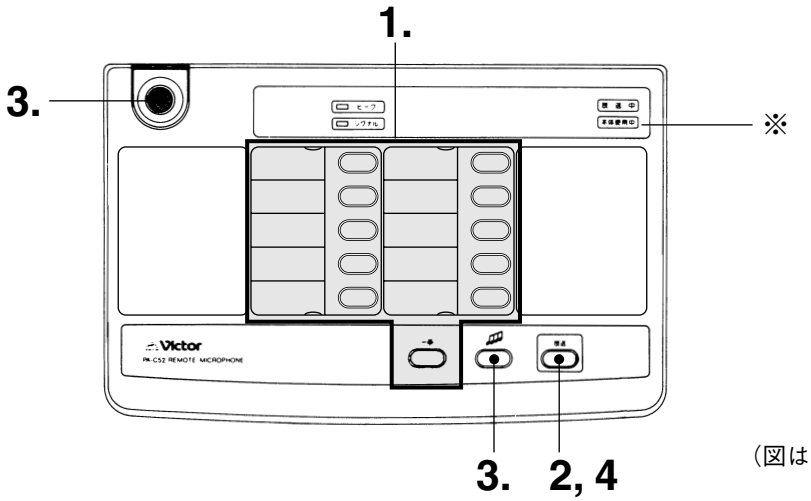
チャイムは、プログラムチャイム（またはタイマー）と組み合わされ、自動的に放送されますが、次のように設定可能です（設定は販売店にお問い合わせください）。
時間の変更はプログラムチャイム（またはタイマー）の取扱説明書をお読みください。

設　定	放 送 状 態
チャイム優先・放送カット	●放送中の音はカットされる。 ●チャイムの音のみ一斉放送される。
等レベルミキシング	●放送中の音とチャイム音が同じ音量でミキシングされる。 ●一斉放送となるため、放送していない場所でもミキシング放送される。
チャイム優先・放送ダウン	●放送中の音のレベルを下げてチャイム音とミキシングされる。 ●一斉放送となるため、放送していない場所でもミキシング放送される。

＜メモ＞
チャイム放送を一斉放送ではなく、特定の場所に放送しないように設定することもできますが、この場合、各放送先のスピーカーのアッテネーターが有効となります。

ご注意
- スタジオスピーカーはスタジオ連絡用なので、リモートマイクロホン、チャイム放送はできません。
- 本体の電源がスタンバイ状態のときは、チャイム放送中に「チャイムリモコン放送中」のメッセージが操作モニターに表示されます。

■リモートマイクロホン（PA-C50/C51/C52）から放送するとき



（図はPA-C52の場合）

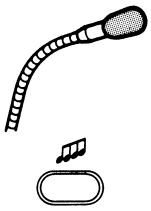
1 放送場所選択スイッチまたは一斉放送スイッチを押し、放送場所を選ぶ

PA-C50の場合は、この操作はいりません。
（一斉放送専用です。）

2 放送スイッチを押す

※ 放送スイッチを押す前に 本体使用中 表示が点灯している時は、本体が使用中であることを示します。

3 フレキシブルマイクに向かって話す



放送の前後にチャイムを鳴らす時は、チャイムスイッチを押します。

■ 放送スイッチを押してから本体のシステムが立ち上がるまで約5秒時間がかかりますのでご注意ください。

4 放送を終える時は、放送スイッチを押す

次回放送するときに放送先の選択間違いのないように、全ての放送場所選択スイッチ、一斉放送スイッチを解除することをおすすめします。

ご注意

- 詳しい使用法はリモートマイクロホン（PA-C50/C51/C52）に添付されている取扱説明書を参照してください。
- リモートマイクロホンから放送中には、操作モニターにリモコン放送中の系統と「一般リモコン放送中」を画面下の空白部に表示します。該当する系統の番号の上に「R」と表示されます。
- 本体の操作パネルの電源スイッチが「切」の場合は「一般リモコン放送中」と表示されます。

リモコン放送のしかた

■放送の優先順位

各種リモコン放送と本体との間には、第一から第三までの優先順位をそれぞれ設定することができます。
優先順位の低い放送は、優先順位の高い放送が始まると、カットされます。
同一優先順位のときは、後押し優先です。（後から押したスイッチ又は機器が優先する。）
優先順位の設定については販売店にお問い合わせください。
出荷時の設定は以下のとおりです。

優先	第一	第二	第三
本体			○
マルチリモートマイクロホン（マルチリモコンマイク）		○	
リモートマイクロホン（リモコンマイク）		○	
チャイム	○		

ご注意

本体よりも優先度の高いリモコン放送が行われている場合、リモコン放送に影響を与える操作は行なえません。リモコン放送中は本体の操作を行なわないでください。

参考
本体よりも優先度の高いリモコン放送が行なわれている場合に、リモコン放送に影響を与えるような操作を行なってしまった場合、下記の例のような動作となります。

例1：音声1系統でリモコン放送中に、音声1系統の放送をONにする。
→放送ONの操作はキャンセルされます。

例2：音声1系統でリモコン放送中に、音声1系統の放送をONにするような内容が登録された標準パターンを実行する
→パターン表示灯が点灯しません。

例3：音声1系統でリモコン放送中に、音声1系統の放送をONにするような内容が登録された拡張パターンを実行する
→選択した拡張パターンは緑色表示になりますが、実際の動作は行なわれません。

なお、本体よりも優先度の高いリモコン放送が行なわれている場合でも、下記の例のようなリモコン放送に影響を与えない操作は可能です。

例1：音声1系統でリモコン放送中に、音声2系統の放送をONにする。

例2：音声1系統でリモコン放送中に、音声モニターの設定を変更する。

例3：音声1系統でリモコン放送中に、音声2系統の放送をONにするような内容が登録されたパターンを実行する（音声1系統は何も設定しないものとします）。

スタジオとの連絡

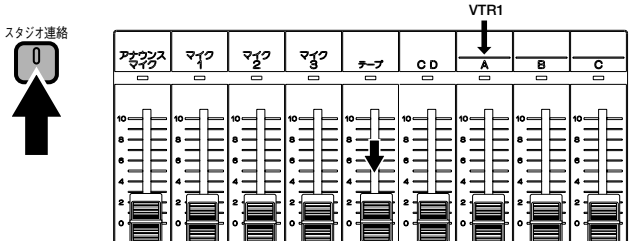
■スタジオ連絡スイッチを使う

●準備

① 音声モニターを音声ミキサーに設定しておく。
② マイク1～3のうち、どれかをきめて、スタジオに置き、音量を調節しておく。

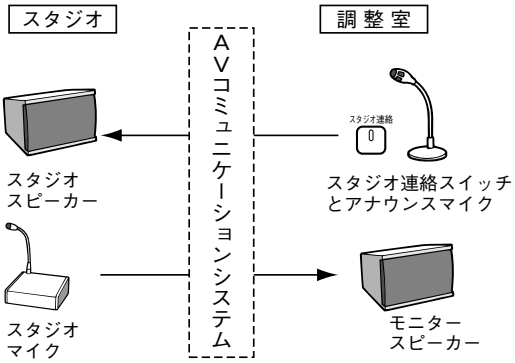
●調整室からスタジオへ

① スタジオ連絡スイッチを押す。
② アナウンスマイクに向かって話す。
　スタジオスピーカーに流れる。



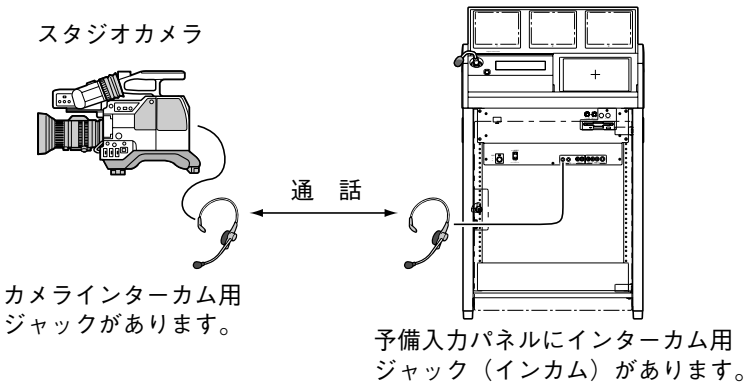
●スタジオから調整室へ

① 再びスタジオ連絡スイッチを押す。
② スタジオのマイクに向かって話す。
　調整室のモニタースピーカーから話が流れる。



■インターカム

インターカムを使用して、各カメラマン、AVコミュニケーションシステム間で通話ができます。



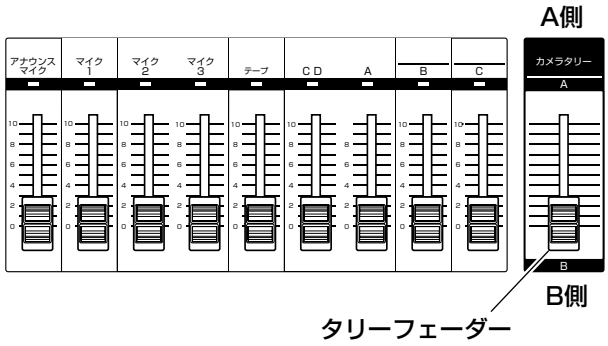
カメラタリーについて

カメラ1～3を使用時、現在放送されているカメラのランプ（カメラの上部）を点灯させて出演者に知らせます。また、映像ミキサーを使用している場合、映像ミキサーへ2台のカメラ映像を送ったときは、タリーフェーダーを操作して、どちらのカメラタリーを点灯させるのか決めます。

タリーフェーダーをＡ側に上げ切ると、Ａ側で選択したカメラのタリーが点灯します。

Ｂ側に下げ切ると、Ｂ側で選択したカメラのタリーが点灯します。

中間位置に移動させると、Ａ側、Ｂ側両方のカメラのタリーが点灯します。



おもな仕様

■AVコミュニケーションシステム　AV-7100

※0 dBs＝0.775V

電源	: AC 100 V 50 Hz／60 Hz
消費電力	: 95 W（スタンバイ時 18 W）
寸法	: 幅578 mm　高さ 990 mm　奥行き 790 mm
質量	: 約50 kg
仕上げ	: 操作部ミデイアムグレー (マンセル10B5/1近似色) 筐体OAアイボリー (マンセル8.0Y7.8／0.8近似色)

●予備入力パネル部

予備1音声(L／R)	: 入力インピーダンス 10 kΩ 不平衡×1 最大入力感度 –32 dBs※ (ピンジャック)
VTR2音声(L／R)	: 入力インピーダンス 22 kΩ 不平衡×1 入力レベル –14 dBs※(ピンジャック)
VTR2映像	: 映像入力レベル 1 V(p-p)／75 Ω×1 (コンポジット)(ピンジャック)
VTR2(YC入力)	: Y信号入力レベル 1 V(p-p)／75 Ω×1 C信号入力レベル　0.286 V(p-p)／ 75 Ω×1(S-ビデオ端子)
インカム出力	: インカムヘッドセット端子×1 (複式フォンジャック)
ヘッドホン出力 (モニタ用)	: 複式フォンジャック×1　8 Ω　3 mW
AC電源コンセント （非連動）	: AC100 V、1 A

●後部端子部(入力回路(音声))

マイク1～マイク3	: 入力インピーダンス600 Ω適合 平衡×3　入力レベル –60 dBs※ (複式フォンジャック) 周波数特性 50 Hz～15 kHz±3 dB S／N 50 dB以上
CD	: 入力インピーダンス 10 kΩ不平衡(L／R) 入力レベル –14 dBs※(ピンジャック) 周波数特性 50 Hz～20 kHz±3 dB S／N 60 dB以上
テープ	: 入力インピーダンス 10 kΩ不平衡 (L／R) 入力レベル –14 dBs※(ピンジャック) 周波数特性 50 Hz～20 kHz±3 dB S／N 60 dB以上
VTR1～VTR3	: 入力インピーダンス 10 kΩ不平衡 (L／R)×3 入力レベル –14 dBs※(ピンジャック) 周波数特性 50 Hz～20 kHz±3 dB S／N 60 dB以上 (VTR2は前面*・後面切り換え可能)
AUX2、AUX3／MD、DVD	: 入力インピーダンス 10 kΩ不平衡 (L／R)×2 最大入力感度 –32 dBs※ (ピンジャック) 周波数特性 50 Hz～20 kHz±3 dB S／N 60 dB以上 (AUX2はステレオ／モノラル切換付)
ワイヤレス	: 入力インピーダンス 22 kΩ不平衡 入力レベル –22 dBs※ピンジャック) 周波数特性 50 Hz～20 kHz±3 dB S／N 60 dB以上
マイクロホンミキサー（レピーター）	: 入力インピーダンス 600 Ω平衡 入力レベル 0 dBs※ (複式フォンジャック) 周波数特性 50 Hz～20 kHz±3 dB S／N 60 dB以上
マルチリモコン	: 入力インピーダンス 600 Ω平衡 入力レベル 0 dBs※ (複式フォンジャック) 周波数特性 50 Hz～20 kHz±3 dB S／N 60 dB以上
リモコンマイク	: 入力インピーダンス 20 kΩ不平衡 入力レベル 0 dBs※ (フォンジャック) 周波数特性 50 Hz～20 kHz±3 dB S／N 60 dB以上
チャイム	: 入力インピーダンス 22 kΩ不平衡 入力レベル 0 dBs※(ピンジャック) 周波数特性 50 Hz～20 kHz±3 dB S／N 60 dB以上
V-AUX1～4	: 入力インピーダンス 10 kΩ不平衡 (L／R)×4 最大入力感度 –32 dBs※ (ピンジャック) 周波数特性 50 Hz～20 kHz±3 dB S／N 60 dB以上
パワーアンプ入力 （スピーカーリレー入力）	: 1系統（ターミナル）

●後部端子部(入力回路(映像))

テレビカメラ1～4	: 入力レベル 1 V(p-p)／75 Ω×4 (BNCコネクター)
書画カメラ（OHC）	: 入力 1 V(p-p)／75 Ω (BNCコネクター)
VTR1～VTR3	: 入力レベル 1 V(p-p)／75 Ω×3 (BNCコネクター) (ただしVTR2は前面*・後面切換可能)
DVD	: 入力レベル 1 V(p-p)／75 Ω (BNCコネクター)
V-AUX1～V-AUX4	: 入力レベル 1 V(p-p)／75 Ω×4 (BNCコネクター)

*：出荷時設定済み

●後部端子部(YC分離入力回路(映像))

VTR1, VTR2	: Y信号入力レベル 1 V(p-p)／75 Ω×2 C信号入力レベル 0.286 V(p-p)／ 75 Ω(S-コネクター)×2
カメラ1	: Y信号入力レベル 1 V(p-p)／75 Ω C信号入力レベル 0.286 V(p-p)／ 75 Ω(S-コネクター)
外部映像 ミキサー用	: Y信号入力レベル 1 V(p-p)／75 Ω C信号入力レベル 0.286 V(p-p)／ 75 Ω(S-コネクター)

●後部端子部(出力回路(音声))

音声放送出力1～3 (PA OUT1～3)	: 適合負荷インピーダンス10 kΩ以上 不平衡×3 出力レベル 0 dBs※ (単式フォンジャック) S／N 60 dB
ライン出力1～3 (HE 1～HE3)	: 適合負荷インピーダンス10 kΩ以上 不平衡×3 出力レベル −10 dBs※ (単式フォンジャック) S／N 60 dB
録音出力 (テープ出力)	: 適合負荷インピーダンス10 kΩ以上 (L/R) 出力レベル −10 dBs※ (ピンジャック)
音声ミキサー出力	: 適合負荷インピーダンス10 kΩ以上 (L/R) 出力レベル 0 dBs※(ピンジャック)
モニタースピーカー出力	: 負荷インピーダンス 8 Ω(L／R) 出力レベル 1 W (ターミナル)
スタジオスピーカー出力	: 負荷インピーダンス 8 Ω 出力レベル 1 W(単式フォンプラグ)
スピーカーリレー出力	: 一斉+10回線(15ピンコネクター)
マスターモニター 出力1，出力2	: 適合負荷インピーダンス10 kΩ以上 (L/R) ×2 出力レベル 0 dBs※(ピンジャック)
VTR1, VTR3出力	: 適合負荷インピーダンス10 kΩ以上 (L／R)×2 出力レベル -8 dBs※

●後部端子部(出力回路(映像))

ライン1～ライン3	: 出力レベル 1 V(p-p)／75 Ω×3 (BNCコネクター)
マスターモニター出力1, 2	: 出力レベル 1 V(p-p)／75 Ω×2 (BNCコネクター)
VTR1,VTR 3	: 出力レベル 1 V(p-p)／75 Ω×2 (BNCコネクター)
BB出力	: ブラックバースト／75 Ω (BNCコネクター)
外部映像 ミキサー用	: 出力レベル1 V(p-p)／75 Ω×3 (BNCコネクター)

●後部端子部(YC分離出力回路(映像))

VTR3	: Y信号出力レベル 1 V(p-p)／75 Ω C信号出力レベル 0.286 V(p-p)／ 75 Ω(S-コネクター)
VTR3モニター	: Y信号出力レベル 1 V(p-p)／75 Ω C信号出力レベル 0.286 V(p-p)／ 75 Ω(S-コネクター)
外部映像 ミキサー用	: Y信号出力レベル 1 V(p-p)／75 Ω C信号出力レベル 0.286 V(p-p)／ 75 Ω(S-コネクター)

●後部端子部(ACコンセント部)

AC電源コンセント(連動)	: AC 100 V、7個口(合計最大1050 W)×2
(非連動)	: AC 100 V、2個口(各最大300 W)

■本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

おもな仕様

■ラジオチューナーユニット　AV-7010

※0 dBs＝0.775V

電　　源：DC24 V
消 費 電 流：FM受信時120 mA
　　AM受信時90 mA
出力レベル
　可変出力：-10 dBs※～-∞不平衡
アンテナ端子：75 Ω不平衡　F接栓
（FM、AM共用）
FM
　受信周波数：76.0 MHz～90.0 MHz
　中間周波数：10.75 MHz
　実用感度：15 dBμV（S/N 30 dB）
　全高調波歪率：3%
　選択度：65 dB

AM
　受信周波数：531 kHz～1629 kHz
　中間周波数：450 kHz
　実用感度：34 dBμV（S/N 20 dB）
　全高調波歪率：10%
　選択度：28 dB
メモリーバックアップ方法：不揮発性メモリーによる
寸　　法：200 mm（W）×44 mm（H）
　　×94 mm（D）
　　（奥行は突起部含まず）
質　　量：約500 g
仕 上 げ：ABS樹脂　OAアイボリー色
　　マンセル5.5Y7.5/0.3 近似色

■本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

メッセージ一覧

メッセージ内容	対処方法	参照ページ
操作モニターに『VTR1は「録画1」で使用中です。「録画1」をクリアしてから、もう1度操作してください』と表示される	映像放送画面の［録画1］ボタンを指で押し、VTR1録画選択画面を開きます。選択された緑色のボタンを指で押して選択を解除し、「とじる」ボタンを指で押します。	38
操作モニターに『VTR3は「録画3」で使用中です。「録画3」をクリアしてから、もう1度操作してください』と表示される	映像放送画面の［録画3］ボタンを指で押し、VTR3録画選択画面を開きます。選択された緑色のボタンを指で押して選択を解除し、「とじる」ボタンを指で押します。	38
操作モニターに『テープレコーダーは「録音」で使用中です。「録音」をクリアしてから、もう1度操作してください』と表示される	音声放送画面の［録音］ボタンを指で押し、録音選択画面を開きます。選択された緑色のボタンを指で押して選択を解除し、「とじる」ボタンを指で押します。	32
操作モニターに『処理中です、しばらくお待ち下さい』と表示される	故障ではありません。表示が消えてから、もう一度操作してください。	−

故障と思うまえに

故障かなと思ったら...　修理を依頼する前にお確かめください。

■音声系

症状	確認していただく内容	処置方法
電源スイッチを押しても電源が入らない。	予備入力パネルの「主電源スイッチ」は「入」になっていますか？	「主電源スイッチ」を入れてください。 《11ページ》
マイク、（またはCD、テープ）の音量調節ができない。	音声放送「なにを」でマイク（またはCD、テープ）を選択していますか？ この場合、音量は適切な音量に固定されています。	音量調節をしたい場合は、音声放送「なにを」で「音声ミキサー」を選択してください。 《29ページ》
リハーサル時（放送開始前）に音声モニターが聞こえない。	「音声モニター」で「[1]音声」が選択されている場合は、放送開始前はモニターできません。	「音声モニター」で「音声ミキサー」「CD」「テープ」などを選択してください。《31ページ》
音声ミキサー使用時、音量つまみを上げても音が出ない。	使用したい機器の音声ミキサー表示灯は点灯していますか？	表示灯が消えている場合は、音声ミキサーの設定を行なってください。 《45ページ》
テープレコーダーを録音状態にすると、ピーという発振音がする	音声ミキサーの「テープ」の音量つまみが上がっていませんか？	「テープ」の音量つまみを下げてください。または、音声ミキサーの設定で「テープ」を無効にすることもできます。 《34、45ページ》

■映像系

症状	確認していただく内容	処置方法
VTR2の映像が映らない。	VTR2入力端子：前面／後面の設定は合っていますか？	前面／後面の設定をしてください。 《45ページ》
VTRに録画ができない。	録画する側のVTRは「外部入力」に切り換わっていますか？	VTRの入力を「外部入力」に切り換えてください。 YCダビングを行う場合には「S-VHS」に切り換えてください。
YCダビング時、音声が録音できない。	音声ミキサーの音量つまみA（またはB）は上がっていますか？	YCダビングは映像ミキサーを使用しているため、音声は「音声ミキサー」を使用します。
	音量つまみA（またはB）の設定はVTR1（または2）になっていますか？	音量つまみA（またはB）の設定をしてください。 《44ページ》

操作パターン登録内容記述シート

操作パターンや内容を変えたときには、このページをコピーして書き込み、本文に貼り付けてご使用ください。

1			ページ
2			ページ
3			ページ
4			ページ
5			ページ
6			ページ
7			ページ

1	→	
2	→	
3	→	
4	→	
5	→	
6	→	

拡張パターン登録内容記述シート

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	

拡張パターン登録内容記述シート

21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	

保証とアフターサービス（必ずお読みください）

保証書の記載内容ご確認と保存について

この商品には保証書を別途添付してあります。保証書はお買い上げ販売店でお渡ししますので、所定事項の記入及び記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

●保証期間について

保証期間はお買い上げ日より1年間です。
保証書の記載内容によりお買い上げ販売店が修理いたします。なお、修理保証以外の補償はいたしかねます。
故障その他による営業上の機会損失は補償致しません。
その他詳細は保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●アフターサービスについてのお問い合わせ先

アフターサービスについてご不明の点は、お買い上げ販売店又は別紙ビクターサービス窓口案内をご覧のうえ、最寄りのビクターサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは

調子が悪いときは、この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。簡単な調整で直ることがあります。それでも具合が悪いときは、お買上げ販売店またはビクターサービス窓口にご相談ください。

- **品名： AVコミュニケーションシステム**
- **品番： AV-7100**
- **故障の状態をできるだけ詳しく**
- **ご購入年月日**
- **ご住所、ご氏名、電話番号**

商品廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例にしたがって適正に処理してください。

お客様ご相談センター

フリーダイヤル 0120–2828–17

携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は
電話 (045) 450-8950［代表］
FAX (045) 450-2275
〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。

ビクターホームページ http://www.victor.co.jp/

日本ビクター株式会社

〒192-8620 東京都八王子市石川町2969-2 電話 (042) 660-7203

© 2006 Victor Company of Japan, Limited

LST0421-001B
3TR004518BAA